



広域集中監視装置／制御システム端末装置

パトホン PT-5500

取扱説明書／工事説明書

IWATSU



小型シール鉛蓄電池のリサイクルにご協力ください。

はじめに

このたびは、パトホン PT-5500をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書は、本製品の設置のしかたや、本製品の使い方について解説しています。
本製品をご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みになり、正しく取り扱ってください。
また、お読みになったあとも、必要なときにすぐに見ることのできるよう大切に保管してください。

なお、本製品の工事（配線・据え付け・設定・試験調整など）は技術と経験が必要です。
工事は必ず「公衆電気通信工事担任者」の有資格者に依頼してください。また、専用電源工事が必要な場合は、「電気工事士」に依頼してください。

ご注意

- ・本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外的要因によって、情報処理・通信などの機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失については、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・通信不良によって生じた障害、通信内容の漏れにつきましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- ・本書の内容に関しては予告なく変更する場合があります。
- ・本製品の仕様、デザイン等に関しては改良のため予告なく変更する場合があります。

お知らせ

- ・パトホンは、電気通信事業法で定められた「端末機器技術基準適合認定」の対象品です。改造などを行うと法律違反となります。
- ・パトホンは電子部品(IC等)を採用しているため、テレビ・スピーカーボックス等の電磁波や磁気の発生する機器のそばでのご使用は、雑音が発生したり、通信が途切れる等の原因となる場合がありますので避けてください。
- ・パトホンは、日本国内で使用するように製作されています。海外では使用できません。
- ・火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意又は過失、誤使用、異常な条件下での使用により生じた損害に対して、当社は一切責任を負いません。

お願い

- ・パトホンは停電時でも動作させるための非常用の小型シール鉛蓄電池（以下電池とする）を実装しています。そのため次の事項にご注意ください。
 - ①停電時における動作補償時間は新品の電池で約6時間です(電池が古くなりますと、動作補償時間は次第に短くなり、最後には機能しなくなります。)
 - ②電池は消耗品です(寿命は電池メーカー製造後約3年です)。定期的に交換してください。
- ・パトホンを常に正常な状態でご使用いただくために専門技術者に保守契約をしていただき、定期点検を1年に1回以上実施してください。
- ・パトホンは、パトホン以外の機器(電話回線やセンサなど)と、電線を使用して接続されています。点検時または異常あるいは不具合がある時には、必ずパトホンに接続されている機器などについても点検を行ってください。

認定

技術基準に定められた型式認定等は次の通り取得しております。

財団法人 電気通信端末機器審査協会

認証番号 A07-0525001

平成19年12月7日

電波自主規制について



この装置は情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

安全にお使いいただくためにお読みください


本製品を安全に正しくお使いいただくため、以下の注意事項をよくお読みになり、必ずお守りください。よくお読みになったあとはいつでも見られる場所に保管してください。

■絵表示について

このマニュアルでは、次の絵表示を使って注意事項を喚起しています。

 警告	この表示を無視し、誤った取り扱いをした場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	この表示を無視し、誤った取り扱いをした場合、人が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

お使いいただくために下記の事項は必ずお守りください。

 警告	
	<ul style="list-style-type: none">● ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。● 衝撃、振動の多い場所は避けてください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。● 開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。● 機器に水が入ったりしないよう、またぬらさないようご注意ください。火災・感電の原因となります。● 機器の上や近くに、花びん、植木鉢、化粧品・薬品・水などの入った容器、あるいは小さな金属物を置かないでください。こぼれたりして中に入った場合、火災・感電の原因となります。● 通風孔などから金属類や燃えやすいものなど異物を入れないでください。火災・感電の原因となります。● 機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。● 故障したまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店などに依頼してください。● 機器のカバーは、はずさないでください。また、分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検、調整、修理は販売店にご依頼ください。● AC100V電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。● タコ足配線はしないでください。火災・加熱の原因となります。● 電源プラグの刃に金属などが触れると火災・感電の原因となります。濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。● パトホンは屋内専用です。もし屋外に設置しますと火災、感電の原因となります。

お使いいただくために下記の事項は必ずお守りください。



警告

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物をのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し火災・感電の原因となります。
- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体のバッテリー接続コネクタ・電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。
- 機器に水が入らないよう、またぬらさないようご注意ください。火災・感電の原因となります。
- 万一、水その他の異物がこの機器の内部に入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 雷が激しいときは電源コード・回線コードに触れないでください。感電の原因となります。
- 機器を廃棄するときは、一般廃棄物として捨てないでください。
廃棄ときは管轄の自治体（区市町村役場等）に連絡して、しかるべき業者に廃棄を依頼してください。守らないと環境を破壊して第三者の身体に損害を与える原因となることがあります。
- 予備電池はプラス／マイナスの極性があります。機器に接続するときは、コネクタの向きを確かめて正しく差し込んでください。予備電池の液漏れ・発熱・破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 予備電池を単体では充電しないでください。液漏れ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 予備電池は本機器専用です。それ以外の機器には使用しないでください。液漏れ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 予備電池を使用する場合は、以下のことを必ず守ってください。液漏れ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
 - ・火の中に投入したり、加熱しない。
 - ・直接はんだ付けしない。
 - ・プラス・マイナスを針金などの金属類で短絡しない。
 - ・予備電池を取り付けるとき、予備電池のコードをはさまない。
 - ・本体を分解したり、傷つけない。
 - ・水や海水につけたり、ぬらさない。
- 予備電池を分解、改造しないでください。液漏れ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 予備電池内部の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- センサ入力端子に電圧をかけないでください。火災の原因となったり、本装置が破壊される原因となります。

お使いいただくために下記の事項は必ずお守りください。



注意

- 壁掛け使用のときは安定した場所に堅固に取り付け、落下に注意してください。けがの原因となります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 機器を風呂場に設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 直射日光の当たるところや、湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- 水滴がついたら乾いた布で拭き取ってください。
- 電源プラグはコンセントに確実に差込んでください。
- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグをもって抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線はずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
- 機器で指定されていない電池は使用しないでください。破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 電気溶接機、高周波ミシン等の電磁雑音を発生する機器、無線機等強電界を発生する機器の近くの設置には、影響を受ける場合があるため避けてください。
- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 使用済みの電池は火中に投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となることがあります。
- 落下しやすい場所や、動物、昆虫の徘徊している場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- 本装置は、電話（アナログ）回線を使用した通報装置です。盗難や火災発生を防止するものではありません。ご使用にあたっては、使用方法や使用条件を十分ご確認の上ご選定ください。
- 本装置は停電でも動作するように予備電池が実装されています。そのためにも以下の点にご注意ください。
 - ・本装置の電源を切らないでください。（常時、充電状態で御使用ください。電池を満充電するためには約1週間の連続充電時間が必要です。）
 - ・停電時における動作補償時間は新品の電池で約6時間です。（電池が古くなりますと、動作時間が短くなり、最後には動作しなくなります。）
- 本装置は通電状態（AC100V）又は電池接続状態で保守しないでください。

はじめに	1
安全にお使いいただくために	3
もくじ	6

第 1 章 概要

1. 概要	8
2. 使用する用語の説明	8
3. システム構成	11
3.1 通報	12
3.2 自動応答	13

第 2 章 取扱説明

1. 概要	14
2. 各部の名称と機能	14
2.1 本体パネル	14
2.2 リモコンボックス PC-2080 (オプション)	16
2.3 キースイッチ KE-500R<竹中エンジニアリング (株) 製> (オプション)	17
3. 通報方式	18
3.1 通報方式	18
3.2 音声通報	22
3.3 簡易遠隔制御 (テレコントロール)	23
3.4 信号通報方式	24
3.4.1 P-2000モード	24
3.4.2 P-3000モード	24
3.4.3 P-6000モード	24
3.5 リモコンボックス (PC-2080) の機能	25
3.5.1 「監視 (運転) / 解除 (停止)」の通報	25
3.5.2 配線の断線通報	25
3.6 キースイッチ (KE-500R) の機能	25
3.7 停電補償	25
3.8 機器情報	26
3.8.1 定時通報	26
3.8.2 バッテリギブアップ通報	26
3.8.3 停電通報/復電通報	26

第 3 章 仕様

1. 構成	27
1.1 本体	27
1.2 構成部品	28
2. 規格および各種仕様	29
2.1 規格	29
2.2 各種仕様	29
3. 動作説明	31
3.1 自動通報動作	31
3.2 自動応答動作	32
3.2.1 簡易遠隔制御 (テレコントロール)	32
3.2.2 PR-3000 (P-3000モード)	35

3. 2. 3 PR-6000およびPR-7000 (P-6000モード)	35
4. 付属品および添付品	35
4. 1 付属品	35
4. 2 添付品	35

第 4 章 取り付け工事とデータの登録

1. 準備	36
1. 1 取り付け場所の選定と電源工事	36
1. 2 各部の名称	36
1. 3 付属品明細	37
1. 4 工事用工具と用品	38
1. 5 電気的条件	38
2. 施工手順	39
3. 取り付け	40
3. 1 警報・監視入力 (センサ) 等の設置と点検	40
3. 2 オプションに関する注意	40
3. 3 本体の取り付け工事	40
3. 4 端子台への接続方法	41
3. 5 電話回線と電話機の接続	46
3. 6 電源線および接地線の配線工事	47
3. 7 オプション機器の接続	49
3. 8 ディップスイッチの設定	51
3. 9 電源投入	51
4. データの設定登録	52
4. 1 通信条件等データ設定表の作成	52
4. 2 データの設定登録の方法	57
4. 2. 1 準備	57
4. 2. 2 設定スイッチの操作方法	58
4. 2. 3 操作の説明	58
5. 設定データ詳細	62
6. 動作試験と調整	67
6. 1 警報・監視 (センサ) 入力信号確認の方法	67
6. 2 通報試験	67
6. 3 通報履歴の読み方	67
6. 4 履歴詳細	68
7. 施工完了後の確認・点検	70
7. 1 接続線の固定 (整理)	70
7. 2 試験が終わった後の点検	70

第 5 章 保守管理

1. 電池	71
1. 1 予備電池の交換	71
1. 2 ヒューズの交換方法	72
1. 3 保守点検チェックリスト	72
1. 4 ランプ表示	73

第 6 章 保証書

1. 保証書	74
--------	----

第1章 概要

1. 概要

広域集中監視装置／制御システム端末装置「パトホン PT-5500」(以下「本装置」と略す)は、電話回線に接続して、各種の警報装置や動力設備等の外部からの電気信号(警報・監視信号(センサ)または計測信号入力)を自動入力したり、電話回線から送られてくる遠方からの制御信号を装置(設備)側に出力する電話回線端末装置です。

なお、信号通報方式でご使用の場合は、別の専用受信装置(PR-7000、PR-6000、PR-3000、PR-2000)の取扱説明書を併せてご覧ください。

2. 使用する用語の説明

本文で使用する用語は、次のように定義してあります。

①電話回線

NTTのアナログ方式の単独加入電話回路に接続できます。PBX内線又はビル電話内線の場合も極性反転機能及び電気的特性がNTT回線と同じであることが必要です。ボタン式電話装置又はホームテレホンの場合はNTT回線の入口(一次側)に接続してください。

設置後に、回線のダイヤル種別(DP/PB)を変更した場合は、データの再設定が必要となります。

「第4章 取り付け工事とデータの登録」の「5. 設定データ詳細 (1) モード1 (a) 電話回線のダイヤル種別」に従って再設定を行ってください。

②極性反転機能

電話交換機の一部機能で、通話相手先(着信側)が応答したとき、発信側回線の極性(±)が反転する機能の事です。(この機能のない場合もありますのでご確認ください)パトホンは、この反転信号を検知すると、相手に情報を自動的に送信開始します。

信号通報方式で使用される場合は、他に「データ送出要求信号方式」があります。

③通報方式

警報・監視信号(センサ)が入力されると、パトホンはあらかじめ設定されている条件に従って自動的に通報動作を開始します。通報相手先は、信号通報方式、メッセージ通報方式のいずれも1グループ4ヶ所として2グループ(計8ヶ所)まで登録可能です。

通報方式には次のような方式がありますので、ご利用の方式に合わせて設定します。

- (a) すべてに通報(AND通報) • 設定通報先すべてに順次通報します。
- (b) いずれかに通報(OR通報) • 設定通報先に順次通報し、通報相手先(着信側)が最初に応答したところで通報を終了します。
- (c) 個別通報 • 設定された通報先1ヶ所のみ通報します。

④信号通報

予め端末番号(ID)を設定しておき、警報・監視信号(センサ)端子に入力があつた時、端末番号(ID)と警報・監視信号(センサ)端子番号を、専用受信装置に信号で自動送信します。

計測(アナログ・デジタル)信号を処理する場合や、遠方制御をされる場合は、専用受信装置側にコンピュータ・システムをご採用ください。

⑤音声通報

予め録音したメッセージを、たとえば、「こちらは、杉並区岩通です。電源が停止しました。」と自動通報します。警報・監視信号センサ入力数（標準8点、オプションユニットによりMAX24点）を録音メッセージにすることができます。

⑥制御出力

制御出力はプッシュホン信号を送出できる電話機または、PR-7000等の受信機から、本装置と接続し、MF信号または通信フォーマットによって本装置の制御リレー（標準2点、オプションユニットによりMAX8点）を動作させるものです。

⑦センサ入力

侵入警報や、各種機械装置の故障（運転状態）信号を電気信号で接続します。入力規格は、無電圧のメーク（動作）接点又はブレーク（復旧）接点です。入力端子には、電圧を印可しないでください。

⑧計数入力（オプションユニット実装時）

各種検出器からのパルス信号入力をセンター側の専用受信機に通報します。加算入力・減算入力・クリア入力があります。

⑨外部接点出力

センサ入力があり、通報動作を開始すると同時に、パトホンでは接点信号を出力します。現地で警報装置等を作動させる場合にお使いください（駆動回路とその電源は別に用意してください）

⑩リモコンボックス

パトホンの監視・解除を行うためのキースイッチです。防犯のための侵入監視に使用する場合は、室内にパトホンを取り付け、出入口にリモコンボックスを取り付けます。機械装置等の運転状況を監視する場合は、機械装置等をオーバーホールする時解除にすると、その間は通報しません。

⑪キースイッチ（KE-500R）＜竹中エンジニアリング製＞

リモコンボックスと同様にパトホンの監視・解除を行うためのキースイッチです。

⑫信号通報モード

信号通報方式でデータを通報する場合、専用受信（センター）装置と約束した伝送ルールがあります。「パトホン PT-5500」の場合、信号通報の方法に次のような取り決めがあります。

PR-2000モード : 主として、15点以内の警報・監視信号（センサ）を専用受信装置に通報する場合に使用します。

PR-3000モード : 主として、24点以内の警報・監視信号（センサ）を通報し、遠方制御を8点以内で行う場合に使用します。

PR-6000モード : 主として、24点以内の警報・監視信号（センサ）を通報し、遠方制御を8点以内、および計測信号を伝送する場合に使用します。

⑬端末番号（ID）

パトホンに付加する固有の番号で、端末番号（ID）が設定登録できます。

⑭定時通報

予めプログラムに従って設定した間隔・周期で自動的に試験通報します。通報をさせない事も可能です。

⑮停電通報

停電したとき、バッテリーの働きで自動的に通報します。通報をさせないことも可能です。

⑯バッテリーギブアップ通報

停電時、バッテリー動作中でバッテリーの容量が少なくなった時自動通報します。

バックアップ時間は、新しい電池で約6時間です。また電池の寿命は約3年間です。定期的に新しい物と交換してください。バッテリーギブアップ通報後自動的に装置の電源を切ります。

⑰割り込み機能

警報・監視入力があり、自動通報をしようとした時、パトホンに接続されている電話機が話中の場合には、強制的に割り込み、電話機側を切り離します。

⑱自動応答機能

パトホンが接続されている電話回線に着信があったとき自動応答し、監視・警報入力の状態を知らせたり、遠方制御信号を受信できるようにします。

接続する電話回線は、通常の業務用の電話と共用すると混乱しますので、専用の電話回線としてください。

⑲機器情報

パトホン本体から発生する情報で「監視・解除」、「定時通報」、「バッテリーギブアップ通報」、「リモコンボックス断線通報」「停電通報」があります。

3. システム構成

本装置のシステム構成を図1. 3 に示す。

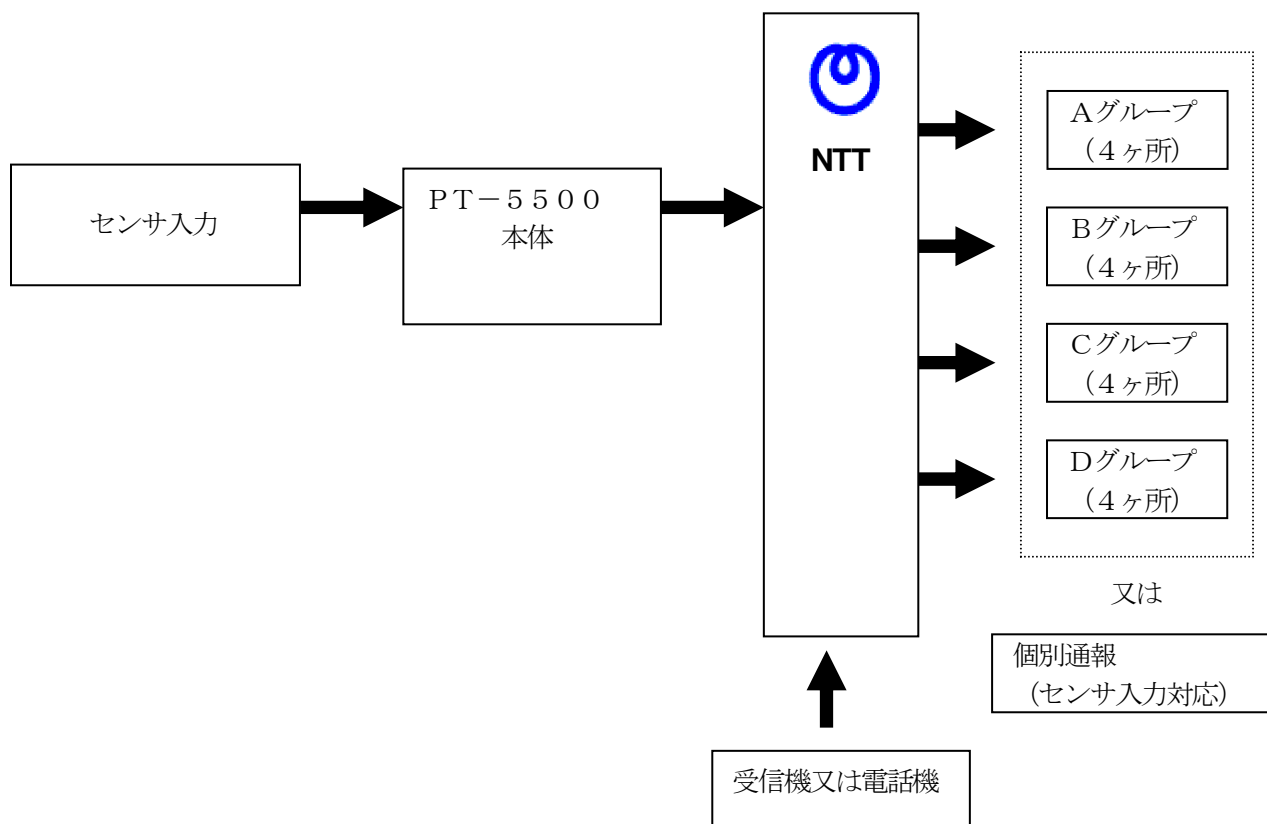


図1. 3 システム構成図

3. 1 通報

①通報先

本装置の通報先は以下の4通りです。

- ・PR-2000 (P-2000) モード
- ・PR-3000 (P-2000/P-3000) モード
- ・PR-6000 (P-2000/P-3000/P-6000) モード
- ・PR-7000 (P-2000/P-3000/P-6000) モード
- ・電話機

本装置と通報/応答できる組み合わせを以下の表に示します。

項	入力ユニット/ 自動応答	電話機	通信モード		
			P-2000	P-3000	P-6000
1	センサ入力 (S01~S08) (標準)	音声による 伝送	S01~S15のみ MF信号による。 S16以降は無効	P-3000 通信フォーマットに よる伝送	P-6000 通信フォーマット による伝送
2	センサ入力 (S09~S24) (オプション)				
3	機器情報 (標準) (注)	音声による 伝送	MF信号による 伝送	P-3000 通信フォーマット による伝送	P-6000 通信フォーマット による伝送
4	計数入力 2CH (オプション)	伝送不可	伝送不可	1CHのみP-3000通信 フォーマットによる伝送 2CHは無効※	P-6000 通信フォーマット による伝送
5	制御出力(自動応答) (1~2 標準) (3~8 オプション)	MF信号に よる伝送	伝送不可	P-3000 通信フォーマット による伝送	P-6000 通信フォーマット による伝送
6	センサ状態確認 (自動応答)	音声による 伝送	伝送不可	P-3000 通信フォーマット による伝送	P-6000 通信フォーマット による伝送

(注) 機器情報については第2章取扱説明 3. 2 (4) 機器情報の通報 を参照して下さい。

②通報方式は個別通報、またはグループ通報のAND/OR通報です。

- ・個別通報はセンサ毎に通報先を1つ持つもので、最大24センサに対応した24の通報先があります。
- ・グループ通報はセンサ毎に4グループの内の最大2グループを選択します。
- ・各グループは、最大8通報先に対してAND通報又はOR通報が行えます。 また、監視/解除、定時通報、リモコンボックス断線、バッテリーギブアップの機器情報は各々単独で通報先を指定します。
- ・個別通報及びグループ通報の通報先は監視中と解除中とを別々に設定することができます。
- ・通報先が設定されていない場合は、通報先NO. 1であるT01へ通報します。
たとえば、個別通報で通報先が設定されていない場合やグループ通報で指定された通報先電話番号が設定されていない場合などです。

3.2 自動応答

パトホンが接続されている電話回線に着信があったとき自動応答し、警報・監視信号（センサ）の状態を知らせたり遠隔制御信号を受信したりします。

第2章 取扱説明

1. 概要

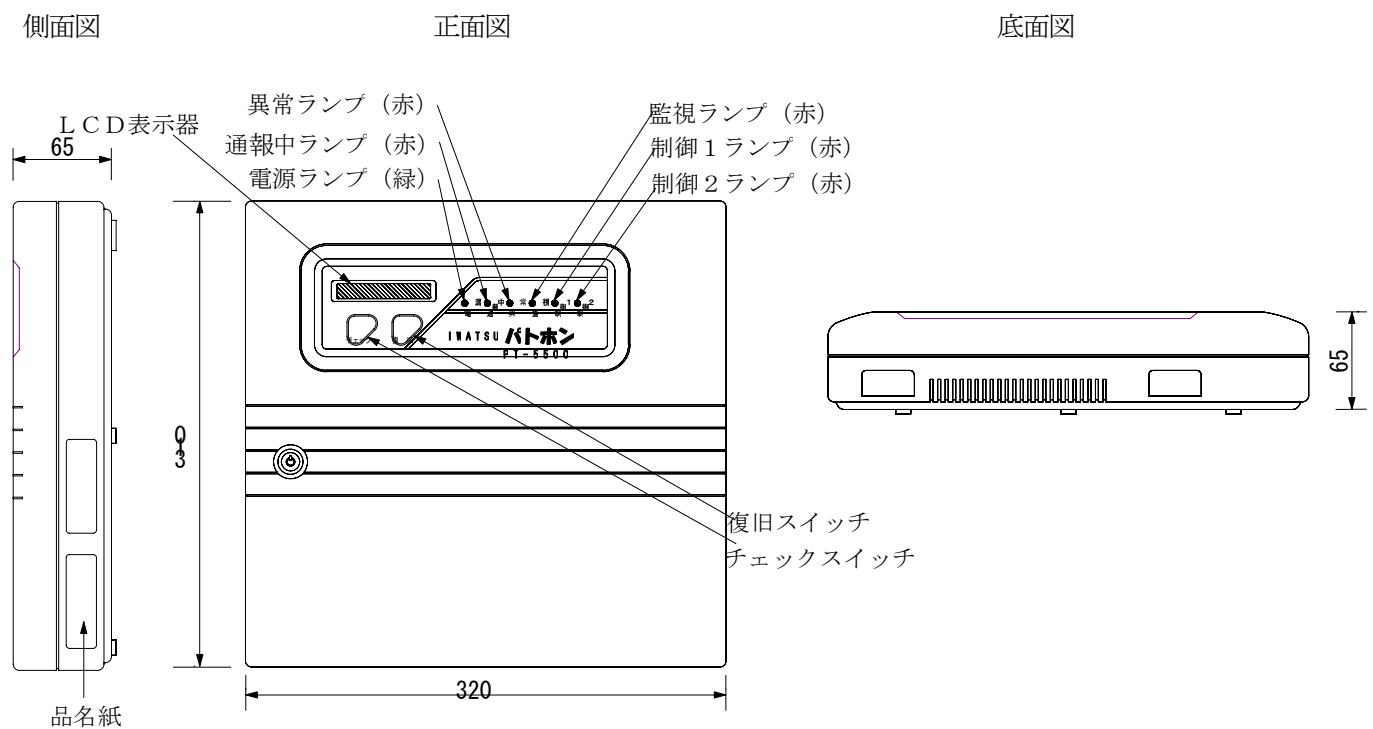
警報・監視信号（センサ）が「パトホンPT-5500」本体に入力されると、自動的に起動し、予め設定登録してある通報相手先の電話番号に情報を通報します。

ご利用の方式あるいは機能によっては、各種の構成品（オプション）が必要になります。「第3章 仕様 1-2 構成品」の項をご参照ください。

「パトホンPT-5500」本体の動作条件等は、設置工事の際に設定登録しますので、事前に工事担当者にご確認の上、実施してください。

2. 各部の名称と機能

2.1 本体パネル



①LCD表示器

通常は表示していません。チェックスイッチが押されたとき、動作している警報・監視（センサ）端子が無いときは、警報・監視信号（センサ）端子番号の代わりにOKを表示します。

センサ：OK

動作している警報・監視信号（センサ）が無いとき。

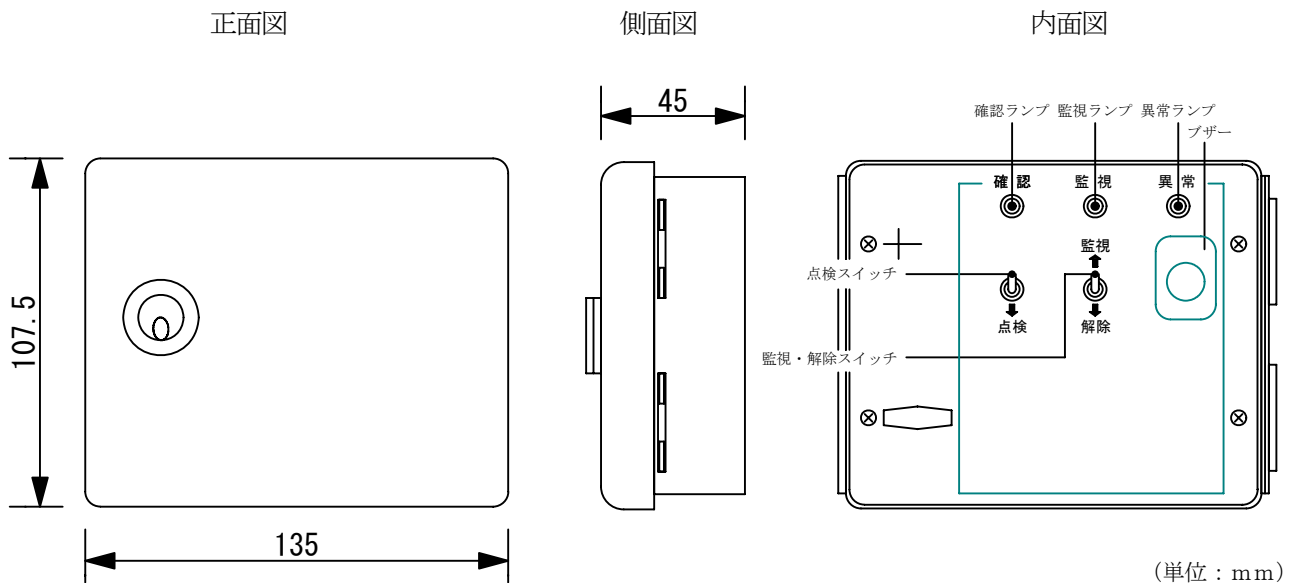
サ5 06

警報・監視信号（センサ）端子番号5と端子番号6に信号入力があるとき。なお、動作している警報・監視信号（センサ）端子番号の数が5以上の場合、警報・監視信号（センサ）端子番号の若い順に4つつつ約2秒間隔で表示します。また、最新の20件分の通報履歴データを表示できます。

- ②「電源」ランプ[緑]
AC100Vが通電されているときは、「点灯」し、停電等でバッテリーで動作しているときは「点滅」に変わります。なお、AC100V通電中でバッテリーが接続されていない場合は早い「点滅」を行います。
- ③「通報中」ランプ[赤]
通常は「消灯」しています。通報中に点灯します。
- ④「異常」ランプ[赤]
監視／解除、定時通報以外でセンサ入力受付を通報する場合「点滅」を始め、通報終了で「点灯」に変わります。復旧スイッチを押すと「点灯」または「点滅」から「消灯」します。
(機器の異常ではありません)
- ⑤「監視」ランプ[赤]
オプションのリモコンボックスまたはキースイッチで監視にすると「点灯」し、解除にすると「消灯」します。
- ⑥「制御1」ランプ[赤]
テレコントロールにより制御1リレーが動作しているときに「点灯」します。リレーが復旧しているときは「消灯」しています。
- ⑦「制御2」ランプ[赤]
テレコントロールにより制御2リレーが動作しているときに「点灯」します。リレーが復旧しているときは「消灯」しています。
- ⑧チェックスイッチ
チェックスイッチを押すと動作している警報・監視信号（センサ）があれば、その警報・監視信号（センサ）番号をLCD表示器に表示します。動作している警報・監視信号（センサ）が無ければ、OKと表示します。
表示の詳細はLCD表示器の項を参照して下さい。
- ⑨復旧スイッチ
復旧スイッチを押すと通報動作を中止し、異常ランプの点灯／点滅が消灯します。さらに警報／監視信号（センサ）の動作によるブザー鳴音を中止し、制御出力リレーを復旧させます。
- ⑩チェックスイッチと復旧スイッチの両押し
復旧スイッチを押しながらチェックスイッチを押すと動作している制御1リレー及び制御2リレーが復旧し、制御1及び制御2ランプも消灯します。
(制御出力オプションも同様です)
- ⑪ブザー
警報・監視信号（センサ）が動作したとき、ブザーが鳴音します。鳴音時間は、0～60秒又は連続鳴音です。

※ランプ表示詳細仕様については第5章 1.4 ランプ表示 を参照して下さい。

2.2 リモコンボックス PC-2080 (オプション)



(1) 監視状態の開始と解除

使用条件は、パトホン本体に設定登録されていますので、取り付け完了時にご確認してください。

① 「点検」スイッチと「確認」ランプ

点検側にスイッチを入れると、警報・監視信号（センサ）が入力していなければ「確認」ランプが点灯し、警報・監視信号（センサ）が入力されていると「確認」ランプは消灯のままです。（パトホン本体のチェックスイッチを押すと、LCD表示器に、信号が入力している端子番号が表示されますので確認してください。）

パトホンを「監視」状態にする場合は、ランプが点灯することを確認してください。

② 「監視」「解除」スイッチと「監視」ランプ

「監視」側にスイッチを入れると、「監視」ランプが点灯し、パトホンは監視（運転を開始）状態になります。（同時にパトホン本体の監視ランプも点灯します。）

「解除」側にスイッチを入れると監視状態が解除され、「監視」ランプも消灯します。

③ 「異常」ランプとブザーの鳴音

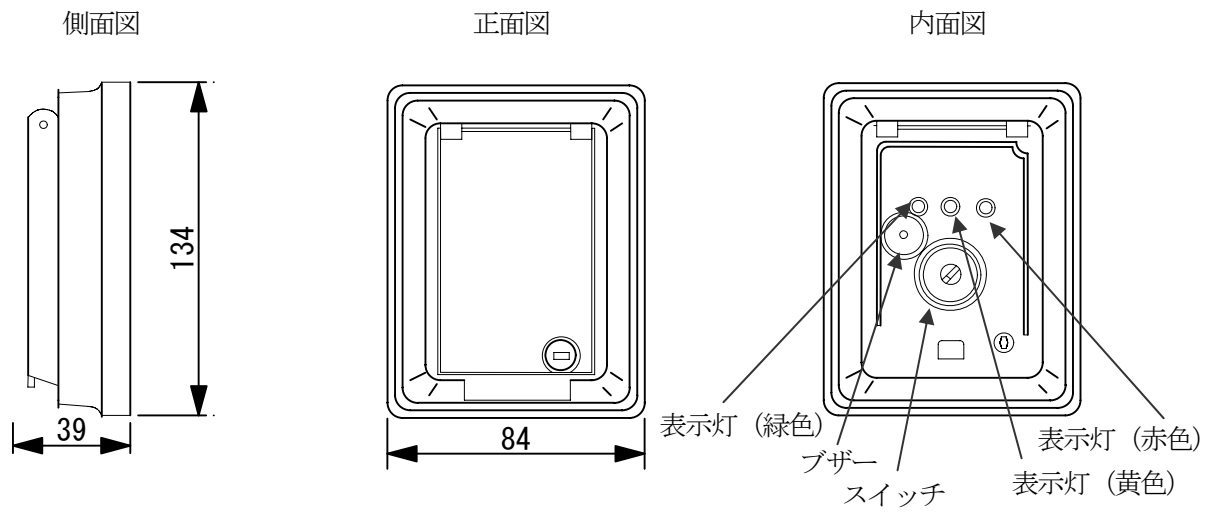
警報・監視信号（センサ）が入力されると、「異常」ランプが点滅し、パトホン本体が通報を開始します。ブザーの鳴音条件は、パトホン本体に設定登録します。

(2) 配線の断線

- ① リモコンボックスとパトホン本体との間の配線が切断されると、異常を通報させることができます。（通報条件の設定登録が必要です。）

2.3 キースイッチ KE-500R<竹中エンジニアリング製> (オプション)

リモコンボックスと同様に、スイッチを操作することにより監視/解除の設定を行うことができます。



(注意) 本キースイッチの詳細な説明はキースイッチ添付の取扱説明書を参照して下さい。

3. 通報方式

3. 1 通報方式

監視・警報信号（センサ）が入力されると、あらかじめ設定されている条件（プログラム）に従って自動通報します。

通報方式は、個別通報方式とグループ通報方式（OR通報／AND通報）があります。また、防犯監視などの場合は、リモコンボックスまたはキースイッチを使用して監視を開始した時、監視を解除したときに通報する事ができます。また、「監視（セット）時」（監視モード）にのみ通報する相手先と「解除（リセット）時」（解除モード）でも通報する相手先を指定する事ができます。

OR通報 2グループ（最大8ヶ所）のうち1ヶ所だけに通報します。

AND通報 2グループ（最大8ヶ所）全てに通報します。

①個別通報方式

各センサ信号入力ごとにそれぞれ1ヶ所の相手先に通報させます。（入力端子がMAX24端子ありますので、通報先も24ヶ所に設定する事ができます。）

通報先	内 容
T01	センサ入力S01に対応
T02	センサ入力S02に対応
T03	センサ入力S03に対応
T04	センサ入力S04に対応
T05	センサ入力S05に対応
T06	センサ入力S06に対応
T07	センサ入力S07に対応
T08	センサ入力S08に対応
T09	センサ入力S09に対応
T10	センサ入力S10に対応
T11	センサ入力S11に対応
T12	センサ入力S12に対応
T13	センサ入力S13に対応
T14	センサ入力S14に対応
T15	センサ入力S15に対応
T16	センサ入力S16に対応
T17	センサ入力S17に対応
T18	センサ入力S18に対応
T19	センサ入力S19に対応
T20	センサ入力S20に対応
T21	センサ入力S21に対応
T22	センサ入力S22に対応
T23	センサ入力S23に対応
T24	センサ入力S24に対応

(注) 設定しない項目は全てT01に通報します。

②個別通報で切換あり

通報先	内 容
T01	リモコンボックスからの解除中設定+センサS01に対応 (※)
T02	リモコンボックスからの監視中設定+センサS01に対応
T03	リモコンボックスからの解除中設定+センサS02に対応 (※)
T04	リモコンボックスからの監視中設定+センサS02に対応
T05	リモコンボックスからの解除中設定+センサS03に対応 (※)
T06	リモコンボックスからの監視中設定+センサS03に対応
T07	リモコンボックスからの解除中設定+センサS04に対応 (※)
T08	リモコンボックスからの監視中設定+センサS04に対応
T09	リモコンボックスからの解除中設定+センサS05に対応 (※)
T10	リモコンボックスからの監視中設定+センサS05に対応
T11	リモコンボックスからの解除中設定+センサS06に対応 (※)
T12	リモコンボックスからの監視中設定+センサS06に対応
T13	リモコンボックスからの解除中設定+センサS07に対応 (※)
T14	リモコンボックスからの監視中設定+センサS07に対応
T15	リモコンボックスからの解除中設定+センサS08に対応 (※)
T16	リモコンボックスからの監視中設定+センサS08に対応
T17	リモコンボックスからの解除中設定+センサS09に対応 (※)
T18	リモコンボックスからの監視中設定+センサS09に対応
T19	リモコンボックスからの解除中設定+センサS10に対応 (※)
T20	リモコンボックスからの監視中設定+センサS10に対応
T21	リモコンボックスからの解除中設定+センサS11に対応 (※)
T22	リモコンボックスからの監視中設定+センサS11に対応
T23	リモコンボックスからの解除中設定+センサS12に対応 (※)
T24	リモコンボックスからの監視中設定+センサS12に対応

(※) モード3のセンサ条件で「監視中のみ発報」を設定したとき、センサ入力にリモコンボックスまたはキースイッチの設定が「解除中」の場合は通報しません。

(注1) S13～S24については、監視中/解除中に関わらず全てT01に通報します。

(注2) 機器情報の通報を行う時はセンサ情報で通報するときと同じように「監視中」/「解除中」のそれぞれの通報先に通報します。(定時、リモコンボックス断線も同様です。)

例) モード2のリモコン設定でS02を設定し、リモコンボックスまたはキースイッチで監視を解除に切り換えたとき、通報先は「解除中設定でセンサS02に対応」のT03に通報します。また、解除から監視に切り換えた場合はT04に通報します。

③グループ通報で切換無し

通報先	内 容
T 0 1	グループ番号1の通報先（4つ）の中で1番目（A）の通報先に対応
T 0 2	グループ番号1の通報先（4つ）の中で2番目（B）の通報先に対応
T 0 3	グループ番号1の通報先（4つ）の中で3番目（C）の通報先に対応
T 0 4	グループ番号1の通報先（4つ）の中で4番目（D）の通報先に対応
T 0 5	グループ番号2の通報先（4つ）の中で1番目（A）の通報先に対応
T 0 6	グループ番号2の通報先（4つ）の中で2番目（B）の通報先に対応
T 0 7	グループ番号2の通報先（4つ）の中で3番目（C）の通報先に対応
T 0 8	グループ番号2の通報先（4つ）の中で4番目（D）の通報先に対応
T 0 9	グループ番号3の通報先（4つ）の中で1番目（A）の通報先に対応
T 1 0	グループ番号3の通報先（4つ）の中で2番目（B）の通報先に対応
T 1 1	グループ番号3の通報先（4つ）の中で3番目（C）の通報先に対応
T 1 2	グループ番号3の通報先（4つ）の中で4番目（D）の通報先に対応
T 1 3	グループ番号4の通報先（4つ）の中で1番目（A）の通報先に対応
T 1 4	グループ番号4の通報先（4つ）の中で2番目（B）の通報先に対応
T 1 5	グループ番号4の通報先（4つ）の中で3番目（C）の通報先に対応
T 1 6	グループ番号4の通報先（4つ）の中で4番目（D）の通報先に対応
T 1 7	監視／解除の通報先
T 1 8	定時通報の通報先
T 1 9	リモコンボックス断線の通報先
T 2 0	バッテリー切れの通報先
T 2 1	（設定無効）
T 2 2	（設定無効）
T 2 3	（設定無効）
T 2 4	（設定無効）

④グループ通報で切換有り

通報先	内 容
T01	グループ番号1の通報先（4つ）の中で1番目（A）の通報先に対応（監視中、解除中）
T02	グループ番号1の通報先（4つ）の中で2番目（B）の通報先に対応（監視中、解除中）
T03	グループ番号1の通報先（4つ）の中で3番目（C）の通報先に対応（監視中、解除中）
T04	グループ番号1の通報先（4つ）の中で4番目（D）の通報先に対応（監視中、解除中）
T05	グループ番号2の通報先（4つ）の中で1番目（A）の通報先に対応（監視中、解除中）
T06	グループ番号2の通報先（4つ）の中で2番目（B）の通報先に対応（監視中、解除中）
T07	グループ番号2の通報先（4つ）の中で3番目（C）の通報先に対応（監視中、解除中）
T08	グループ番号2の通報先（4つ）の中で4番目（D）の通報先に対応（監視中、解除中）
T09	グループ番号3の通報先（4つ）の中で1番目（A）の通報先に対応（監視中、解除中）
T10	グループ番号3の通報先（4つ）の中で2番目（B）の通報先に対応（監視中、解除中）
T11	グループ番号3の通報先（4つ）の中で3番目（C）の通報先に対応（監視中、解除中）
T12	グループ番号3の通報先（4つ）の中で4番目（D）の通報先に対応（監視中、解除中）
T13	グループ番号4の通報先（4つ）の中で1番目（A）の通報先に対応（監視中、解除中）
T14	グループ番号4の通報先（4つ）の中で2番目（B）の通報先に対応（監視中、解除中）
T15	グループ番号4の通報先（4つ）の中で3番目（C）の通報先に対応（監視中、解除中）
T16	グループ番号4の通報先（4つ）の中で4番目（D）の通報先に対応（監視中、解除中）
T17	監視／解除の通報先
T18	定時通報の通報先
T19	リモコンボックス断線の通報先
T20	バッテリー切れの通報先
T21	（設定無効）
T22	（設定無効）
T23	（設定無効）
T24	（設定無効）

（注）モード3のセンサ条件で「監視中のみ発報」を設定したとき、センサ入力時にリモコンボックスまたはキースイッチの設定が「解除中」の場合はセンサ番号の解除中のグループ番号に設定された通報先には通報しません。

3. 2 音声通報

(1) センサ信号、機器情報の通報

通報先相手は、直通電話機に限定してご利用ください。通報するメッセージは、3回繰り返します。
(留守番電話の場合は、留守番電話の応答メッセージとパトホンの通報メッセージが衝突し、留守番電話に録音が可能にできないことが予想されますのでご注意ください。)

(2) 警報・監視の録音メッセージ (センサメッセージ)

①メッセージを録音してある場合の通報内容

録音していただいたIDメッセージとセンサ信号メッセージを組み合わせ、再生 (通報) します。
繰り返しは3回までです。

例1

IDメッセージとセンサ信号メッセージが録音されている場合

「こちらは岩崎太郎です。 2号ポンプが停止しました。」

IDメッセージ (5秒)

センサ信号メッセージ (5秒)

(但し、警報入力条件が両起動で設定された場合は、動作時は録音メッセージが送出されますが、復旧時は固定メッセージの「センサ□□が復旧しました」になります。)

例2

IDメッセージが録音されていて、センサ信号メッセージが録音されていない場合のメッセージ内容

「こちらは岩崎太郎です。 センサ2が動作しました。」

IDメッセージ (5秒)

センサ信号 (固定) メッセージ

例3

IDメッセージとセンサメッセージが録音されていない場合 (固定メッセージ)

「こちらは56789番です。 センサ2が動作しました。」

IDメッセージ (固定)

センサ信号 (固定) メッセージ

(3) 固定メッセージの種類

(メッセージが録音されていない場合は、次の固定メッセージで通報されます。)

①IDメッセージ 「こちらは ○○○○○ 番です 」 端末ID番号 (00000-99999)
端末ID番号

②センサメッセージ 「センサ□□が動作しました」
「センサ□□が復旧しました」
□□: センサ番号 (1-24)

※メッセージ送出時は、「IDメッセージ+センサメッセージ」となります。

③機器情報メッセージ 「これより監視を始めます」
「これで監視を終わります」
「定時通報です」
「バッテリー切れです」
「リモコンボックス断線です」

※メッセージ送出時は、「IDメッセージ+機器情報メッセージ」となります。

(4) 機器情報の通報

IDメッセージに続いて、次の固定メッセージを通報します。

- (a) 監視を通報するとき
「これより監視を始めます」
- (b) 解除を通報するとき
「これで監視を終わります」
- (c) 定めてある時刻に試験通報をするとき
「定時通報です」
- (d) バッテリ切れとなる前に通報するとき
「バッテリー切れです」
- (e) リモコンボックスの配線が切断されたとき
「リモコンボックス断線です」

(5) メッセージ録音のしかた

第4章 4. 2. 3 操作の説明 の「警報・監視（センサ）メッセージの録音／消去」の項目を参照してください。

3. 3 簡易遠隔制御（テレコントロール）

(1) 簡易遠隔制御の操作方法

外出先などから本装置の制御リレーをON/OFFさせたり、センサ状態の確認を行ったりする事ができます。各制御リレーの状態は音声メッセージまたはプッシュボタン信号音で確認できます。

第3章 3. 2. 1 簡易遠隔制御（テレコントロール） の「簡易遠隔制御における音声メッセージ（1）、（2）」を参照してください。

(2) 制御リレーのON/OFFのしかた

- ①外部よりプッシュボタン信号の送出できる電話機から本装置を呼び出します。
- ②本装置が自動応答すると、応答メッセージを送出するように設定されていれば「ただいま不在です」の応答メッセージが聞こえ、暗証番号の入力待ちになります。応答メッセージを送出しないように設定されている場合、直ちに暗証番号入力待ちになります。
- ③外部の電話機から本装置を呼び出してきたときに、ちょうど本装置が通報しようとしていると、本装置より割り込みメッセージが聞こえたり、本装置が応答しない場合（監視・解除通報、定時通報あるいは割り込みが設定されていない場合）があります。この場合は電話を切ってから約2分程度待つてから、再度電話をかけ直してください。
- ④暗証番号の入力待ちになってから30秒以内に、電話機のプッシュボタン信号により、暗証番号4桁を入力します。
- ⑤正しい暗証番号を入力すると、ピピピと暗証番号認識音が聞こえ、制御コードの入力待ちになります。
 - ・間違った暗証番号を入力しても、エラー音は聞こえません。
 - ・間違った暗証番号を2回入力するとピーという終了音が聞こえ、電話が切れます。
 - ・入力間隔が3秒以上空いた場合、あるいは“*”ボタンまたは“#”ボタンを入力すると、それまで入力したデータはクリアされますので始めから入力し直してください。
 - ・30秒以内に暗証番号を入力しなかった場合は、ピーという終了音が聞こえ電話が切れます。
- ⑥制御コードの入力待ちになったら、制御コードを入力します。（制御コードは表2 制御コードと制御確認の音声メッセージ を参照してください。）
 - ・正しい制御コードを入力すると、該当する制御リレーがON/OFFし、その確認メッセージが聞こえます。
 - ・制御コードと確認メッセージは第3章 3. 2. 1 簡易遠隔制御（テレコントロール） の、「簡易遠隔制御における音声メッセージ（1）、（2）」を参照してください。
 - ・誤った制御コードを入力すると、ピピピピピという制御コード誤り音が聞こえてきますので、正しい制御コードを入力し直してください。
 - ・入力間隔が3秒以上空いた場合、あるいは“*”ボタンまたは“#”ボタンを入力すると、それ

まで入力したデータはクリアされますので始めから入力してください。

- ・25秒間入力がないとピピと終了予告音が聞こえてきます。そのまま入力しないと30秒でピーという終了音が聞こえ、電話が切れます。
- ・制御コードは本装置が自動応答してから3分以内であれば何回でも入力できますが、3分を経過するとピーという終了音が聞こえ、電話が切れます。

(注) 電話のダイヤルボタン (プッシュボタン信号送出) は1秒以上押してください。

(3) センサ状態の確認方法

- ①外出先よりプッシュボタン信号の送出できる電話機から本装置を呼び出します。
 - ②本装置が自動応答すると、応答メッセージを送出するように設定されていれば「ただいま不在です」の応答メッセージが聞こえ、暗証番号の入力待ちになります。
 - ③暗証番号の入力待ちになってから30秒以内に、電話機のダイヤルボタン (プッシュボタン信号) により、暗証番号4桁を入力します。
 - ④正しい暗証番号を入力すると、ピピピと暗証番号認識音が聞こえ、制御コードの入力待ちになります。
 - ⑤制御コードの入力待ちになったら、電話機のダイヤルボタン (プッシュボタン信号) により、制御コード「99」を入力します。
 - ⑥センサが動作していない場合には「こちらは XXXXX です。」というメッセージが聞こえます。
(XXXXX 端末番号又はIDメッセージ)
 - ⑦センサが動作している場合は「こちらは XXXXXです。センサ□□が動作しています。」
(□□ センサ番号)
- このような動作をすることにより現在のセンサ状態を把握することができます。

3. 4 信号通報方式

3. 4. 1 P-2000モード

通報起動によるセンサ入力情報の1番～15番は、専用受信装置では1番～15番に受信します。
P-2000モードにはセンサ信号状態確認はありません。

3. 4. 2 P-3000モード

(1) 送信情報と受信機表示

センサ入力情報の1番～24番は、専用受信装置PR-7000では1番～24番に受信します。

(2) センサ入力状態確認

専用受信装置側からの呼出に対して自動応答し、その時点のセンサ入力の状態・機器情報を専用受信装置側に送信します。(各情報は「監視/解除」に関係なく、その時点の状態を送信します。)

- ①センサ入力状態確認は、「使用しない/監視中のみ使用する/常時使用する」を選択できます。
- ②自動応答する着信信号の回数は1～24回の中から選択できます。

(3) 制御出力

専用受信装置側からの呼び出しに対して自動応答し、制御情報により接点出力します。

- ①制御出力は「使用しない/監視中のみ使用する/常時使用する」を選択できます。
- ②自動応答する着信信号の回数は1～24回の中から選択できます。
- ③制御出力リレーは1/2/5/10秒間のパルス出力又はラッチを選択できます。
- ④制御出力リレーは標準2点 (オプション (6点) 装着で計8点) 制御できます。

3. 4. 3 P-6000モード

(1) 送信情報と受信機表示

センサ入力情報の1番～24番は、専用受信装置PR-6000では1番～24番に受信します。
計数入力は「ケイスウ***」と受信します。

(2) センサ入力状態確認

専用受信装置側からの呼出に対して自動応答し、その時点のセンサ入力の状態・機器情報を専用受信装置側に送信します。(各情報は「監視/解除」に関係なく、その時点の状態を送信します。)

- ①センサ入力状態確認は、「使用しない/監視中のみ使用する/常時使用する」を選択できます。

②自動応答する着信信号の回数は1～24回の中から選択できます。

(3) 制御出力

専用受信装置側からの呼び出しに対して自動応答し、制御情報により接点出力します。

①制御出力は「使用しない／監視中のみ使用する／常時使用する」を選択できます。

②自動応答する着信信号の回数は1～24回の中から選択できます。

③制御出力リレーは1/2/5/10秒間のパルス出力又はラッチを選択できます。

④制御出力リレーは標準2点（オプション（6点）装着で計8点）制御できます。

3.5 リモコンボックス（PC-2080）の機能

3.5.1 「監視（運転）／解除（停止）」の通報

「監視（運転）／解除（停止）」の通報およびセンサ信号状態の確認をおこなうためのキー・スイッチです。

(1) 監視（運転）／解除（停止）の通報

①使用する／使用しないの設定ができます。

②使用する場合、運転開始情報または運転停止の通報をします。

(2) チェックスイッチを押したときのランプ表示

①センサ入力が無いとき 点灯

②センサ入力があるとき 消灯

(3) ブザー

本体の通報起動設定条件に同期して「鳴音／停止」します。また、本体の復旧スイッチで鳴音を停止する事もできます。

(4) 異常ランプ

本体の「監視（運転）／解除（停止）」「定時通報」以外の通報起動状態で点灯保持し、本体の復旧スイッチで消灯します。

3.5.2 配線の断線通報

断線情報を「通報する／通報しない」の設定ができます。

3.6 キースイッチ（KE-500R）の機能

「監視／解除」の通報をおこなうためのキースイッチです。

(1) 監視／解除の通報

①使用する／使用しないの設定ができます。

②使用する場合、監視情報または解除情報の通報をします。

(2) 表示灯の表示について

①監視状態のとき 点灯

②解除状態のとき 消灯

(注意) このキースイッチ（KE-500R）を使用するときは、添付の取扱説明書も参照して下さい。

3.7 停電補償

停電時に電池駆動となり、約6時間動作します。

(1) 停電補償

停電動作6時間の待機状態の時、3回の通報起動ができます。但し、リモコンボックス未使用、外部出力リレー、ブザーが動作していないこととします。それらが動作している場合及び、バッテリー寿命の場合は6時間を経過しないうちに電源を切ることがあります。

3. 8 機器情報

3. 8. 1 定時通報

一定時間間隔で通報を行い、電話回線の切断等の障害がないことを相手に通報する機能です。

- (1) 本体内部のタイマーにより、1～300時間の設定ができます。
- (2) 設定した警報・監視信号番号の入力条件で通報します。
- (3) 次の状態の時は、通報しません。
 - ①モード切換スイッチを「設定」又は「試験」にしているとき。
 - ②通報条件を「監視中のみ定時通報あり」に設定し、リモコンボックスを使用して「解除」にしているとき。

3. 8. 2 バッテリギブアップ通報

バッテリーの電圧が降下し、これ以上通報できないことを相手先に通報する機能がバッテリーギブアップ通報です。

- (1) 「通報する／通報しない」の選択ができます。
- (2) 「通報をする」場合、バッテリーの電圧降下を検知すると、バッテリーギブアップ通報を行い、通報後に本装置の電源を切ります。相手先不応答の場合でも3回（音声通報）、30回（信号通報）の通報で電源を切ります。
また、バッテリーの電圧が著しく低下した場合、再通報回数を待たずに電源を切る場合があります。
- (3) 「通報しない」場合、予備電池の電圧降下を検知すると、その状態で本装置は電源を切ります。

3. 8. 3 停電通報／復電通報

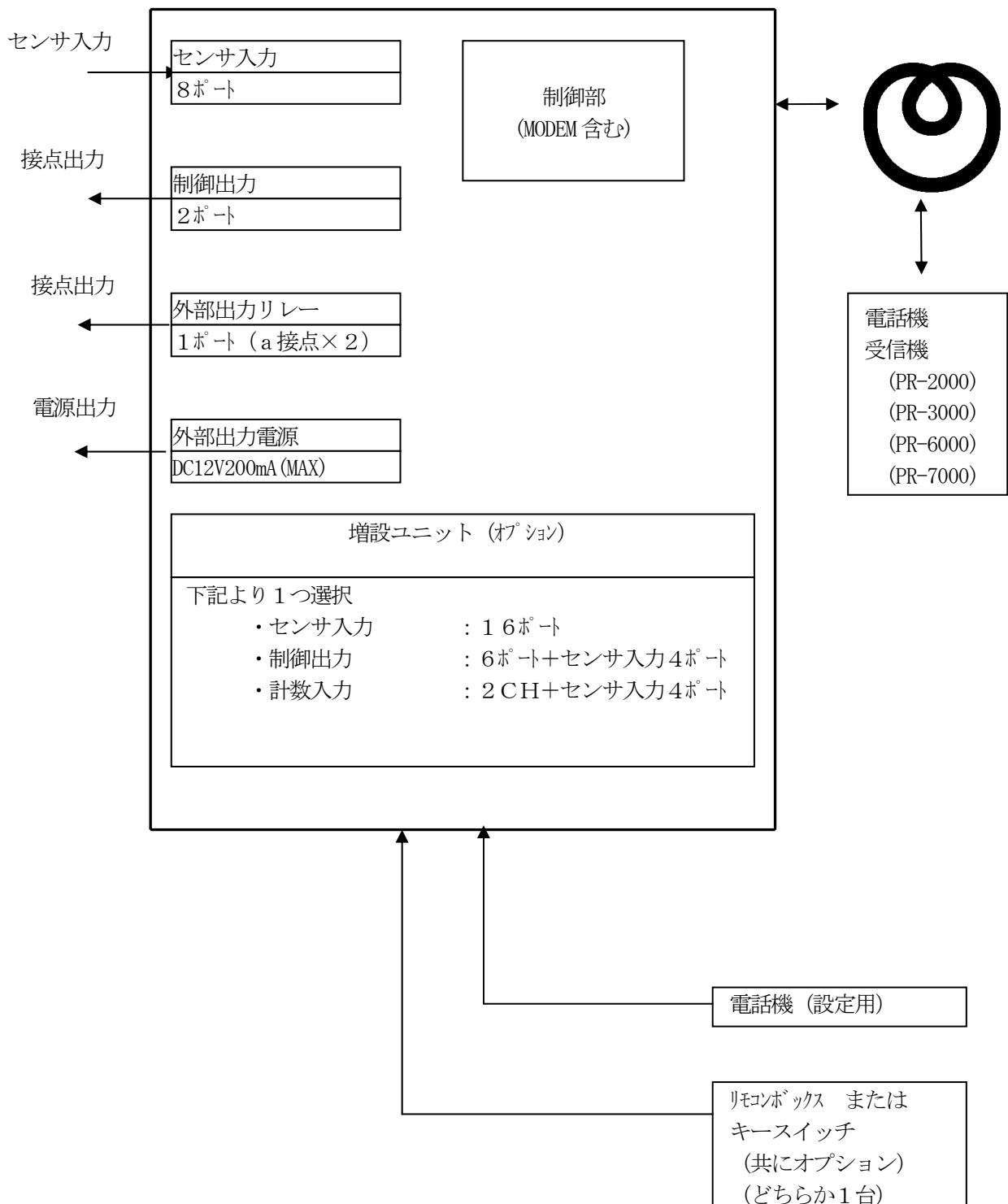
停電／復電の状態を相手先に通報する事を、停電通報／復電通報といいます。

- (1) 停電の検出信号が端子台（TA2-23）に出力されておりますので端子台とセンサ入力を接続することにより停電時通報がおこなえます。また接続したセンサの設定（モード3）を両起動にすることにより復電通報を行うことができます。
- (2) 電源スイッチ「断」でも停電とみなすため、電源を切る場合には先にバッテリーの接続コネクタをはずしてください。

第3章 仕様

1. 構成

1.1 本体



1.2 構成品

①本体 PT-5500

初実装で8ポートのセンサ入力、2ポートの制御出力及び1ポートの外部出力リレーが可能で、下記増設ユニットを1ユニットのみ増設可能です。

②リモコンボックス PC-2080 または キースイッチ KE-500R

監視／解除の状態設定を行うときに用います。また、リモコンボックスのみセンサ状態の確認点検を行うこともできます。接続可能台数は1台です。

③増設ユニット

下記ユニットの内1ユニットのみを実装可能です。

- ・センサ増設ユニット（16ポート増設）
本ユニットを増設することによりセンサ入力を最大24ポートとすることができます。
（本ユニットは非絶縁型です。）
- ・制御出力増設ユニット（6ポート増設+センサ入力4ポート増設）
本ユニットを増設することにより制御出力を最大8ポートおよびセンサ入力12ポートとすることができます。（本ユニットは制御出力絶縁型、センサ入力非絶縁型）
- ・計数入力ユニット（P-6000モード時2CH、P-3000モード時1CH）
本ユニットを増設することにより最大2チャンネル分の計数カウント及びセンサ入力12ポートにすることができます。（本ユニットは非絶縁型）

2. 規格および各種仕様

2. 1 規格

表 2. 1 規格

項目	内容	規格	
動作環境	周囲温度	0℃～+40℃	
	周囲湿度	30%～85% ただし、結露なきこと。	
入力電源	電圧	AC100V±10V (50Hz/60Hz)	
	消費電力	動作時	約20VA
		待機時	約15VA
予備電源	電圧	約12V DC	
	容量	1.2AH～1.5AH	
	停電補償時間 (3回通報、常温)	6時間 (但し、リモコンボックスなしでブザー、外部出力リレー、制御リレーが動作していないとき。)	
	充電時間	約1週間	
外観	寸法	320 (W) × 310 (H) × 65 (D) (mm)	
	重量	約3.5Kg 但し、オプション含まず	
	筐体色	マンセル5Y8.5/1	
保安	接地	100Ω以下 (第D種)	

2. 2 各種仕様

(1) 認証番号 : A07-0525001

(2) 端末番号 : 00000 ~ 99999
: 00000 ~ 07999 (PR-2000の4桁対応機、PR-3000)

(3) 方式

- ①電話回線 : 一般公衆回線
- ②ダイヤル方式 : DP/PB
- ③ダイヤル種別 : DP/PB
- ④通報方式 : 音声メッセージ通報/MF/V22bis
- ⑤直流抵抗 : 約270Ω

(4) 自動通報先

- ①相手先数 : 24ヶ所 (最大) (グループ通報時1センサ2グループ8ヶ所最大)
- ②ダイヤル桁数 : 1桁～32桁 (最大)
- ③自動再発信回数 (不応答時) : 2回 (音声)、29回 (信号)
- ④通報相手先 : 電話機/当社指定の受信機
- ⑤特番ダイヤル : 不可 (110、119、118)

(5) 通報方式

- ①グループ通報 : センサ毎に4グループの内最大2グループを選択
(1グループ当たり4通報先に対し AND 又は OR 通報選択)
- ②個別通報 : センサごとに1ヶ所の通報先を設定
- ③通報先切換 : 監視中/解除中 の通報先切換可能

- (6) メッセージ
- ①割り込みメッセージ : 固定1種類
 - ②応答メッセージ : 固定1種類
 - ③制御メッセージ : 固定1種類 (制御番号含む)
 - ④動作確認メッセージ : 固定1種類
 - ⑤IDメッセージ (録音/再生) : 固定1種類 (端末番号含む)
: 可変1種類 (録音/再生 5秒間)
 - ⑥センサメッセージ (録音/再生) : 固定2種類 (センサ番号含む)
: 可変24種類 (録音/再生時間 5秒間)
 - ⑦機器情報メッセージ : 固定5種類
 - ⑧メッセージ繰り返し回数 : 3回
- (7) 情報数
- ①監視/異常情報 : 初実装8ポート 最大24ポート
 - ②制御情報出力 : 初実装2ポート 最大8ポート
 - ③制御情報入力 : 無し
- (8) センサ条件
- ①動作条件 : 端子間400Ω以下にて動作
 - ②センサ種別 : メーク接点/ブレーク接点 (無電圧接点)
 - ③感動時間 : 0.5秒/5秒/10秒 のいずれかを選択
 - ④起動条件 : 立ち上がり起動/立ち上がり、立ち下がり両起動
 - ⑤通報条件 : 常時起動/監視中のみ起動
 - ⑥通報起動のブザー音 : 無し/1秒~60秒/連続
- (9) 機能
- ①警報状態問い合わせ : 可能
 - ②警報ランプ表示 : 異常ランプ (1個)
 - ③外部出力接点 (DC50V、200mA) : 1出力 (2接点)
 - ④警報セット/リセット : 監視/解除の切換可能
- (10) 自己試験機能
- ①停電復電情報 : あり
 - ②定時通報 : あり (1~300時間設定)
 - ③バッテリーギブアップ通報 : あり
- (11) 計数入力 (P-3000/P-6000通信専用)
- ①入力点数 : 2点 但し切換による
 - ②入力条件 : 端子間 400Ω以下にて動作
 - ③入力パルス幅 : 100mS以上
 - ④入力種別 : 加算入力/減算入力/クリア入力
 - ⑤フォーマット : BCD10ビット 3桁/点 (0~999)
: 999以上はカウントしません。
0以下は減算しません。
- (12) 制御出力 (簡易遠隔制御およびP-3000/P-6000通信専用)
- ①制御点数 : 8点 (オプション含む)
 - ②接点定格 : DC50V 0.2A
 - ③接点形式 : 無電圧動作 (メーク) 接点
 - ④出力形式 : 保持又は1秒/2秒/5秒/10秒のパルス

3. 動作説明

3. 1 自動通報動作

(1) 通報起動

- ・センサ入力または機器情報が入ると、通報起動がかかります。なお、通報に関しては「(6) 通報に関する留意点」を参照してください。
- ・「監視／解除・定時」通報以外で通報起動がかかると、異常ランプが点滅します。
- ・通報起動がかかったセンサ入力または機器情報にブザー鳴動が選択されている場合は、本装置のブザー、本装置内の外部出力リレー／リモコンボックスのブザーが設定されている時間だけ動作します。またこのときリモコンボックスの異常ランプも点滅します。

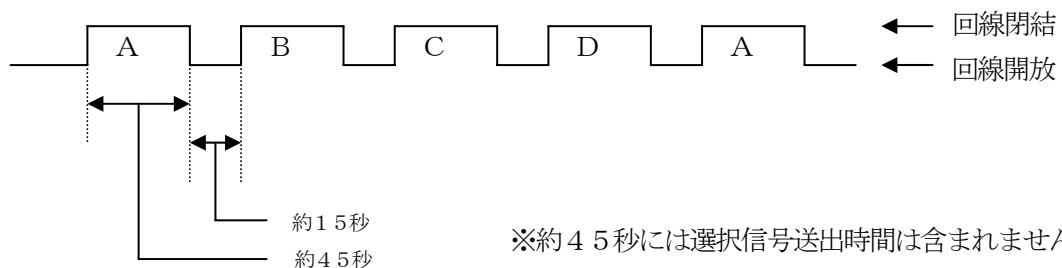
(2) 自動発信

- ・通報起動がかかったとき、電話機が使用されていない、かつ着信信号が無ければ、回線を捕捉して自動発信します。
- ・電話機を使用中の場合に、割り込み機能が設定されていると電話機側を強制切断して通報を開始します。(割り込み機能が設定されていない場合は、電話機の使用が終わるのを待って、通報を開始します)
- ・自動発信あるいは割り込み動作で回線捕捉中は通報ランプが点灯します。
- ・割り込み機能による回線捕捉時に、相手側の電話機に割り込みメッセージを送出します。
- ・割り込みメッセージは次の通りです。(アナログ回線使用時のみ)

「緊急事態が発生しました。緊急通報のため至急電話を切ってください。」

(3) 自動再発信

- ・相手応答を検知できない場合、自動的に再発信を繰り返します。ただし、グループ通報（通報先 A・B・C・D）の場合は次に示す順序で通報します。



(注) 上記に示した時間はあくまで再発信の場合であって、着信等があった場合はこの限りではありません。

- ・繰り返し回数は1通報先に対し、初回を入れて音声通報の場合最大3回、信号通報の場合最大30回とします。最大回数まで繰り返しても通報できなかった場合、通報中ランプと異常ランプが同時に点滅し通報動作を終了します。

(4) 相手応答検知

- ・相手応答検知は極性反転、又はP-2000/P-3000/P-6000プロトコルで行います。
- ・自動発信による選択信号送出後、一定時間経過しても相手応答検知ができない場合は、「(3) 自動応答再発信」に従って再発信を行います。

- (5) 情報送出および終了
相手応答を検知したらデータまたはメッセージを送出します。
- (a) 相手応答検知が極性反転の場合（電話機またはP-2000の一部）
データまたはメッセージを送出し終わると回線を開放します。 エラーの処理はありません。
（ハンズフリーありの場合、相手先が切断しない限り2分間保持した後回線を開放します。）
- (b) 相手応答検知が信号通報による場合
それぞれの通信フォーマットに従います。
- (6) 通報に関する留意点
- (a) リモコンボックスで「監視／解除」を切り換えると、切り換えた時点で「監視中のみ通報」に設定されたセンサの「有効／無効」が切り替わります。
- (b) AND/OR 通報で同一の通報先に通報するセンサ情報が他にもある場合、一回の通報で該当するセンサ情報をすべて通報します。
- (c) 復旧スイッチを押すと通報起動はクリアされ、通報は停止します。 但し、通報動作中に復旧スイッチを押した場合、電話機および通信モードにより以下の動作を行います。
- 音声メッセージ送出前又は通信プロトコル開始前：回線を切断し、通報を停止します
音声メッセージ送出後又は通信プロトコル開始後：通報動作終了まで動作を継続します。
- (d) 通報起動のかかったセンサについては、起動のかかったセンサ情報を通報し異常ランプが点灯するまでは、そのセンサが変化しても、それは無視されます。しかし、そのセンサ情報を通報し異常ランプが点灯したとき再度センサをしらべ、通報した内容と異なっており、且つ通報起動条件が整っていれば再度通報します。
- (e) すでに通報済みのセンサ情報は基本的には送信されませんが、装置のモード変更、リセット等で装置が初期化されたとき、通報動作を行うことがあります。
- (f) 装置が監視中の時のリセット（電源立ち上げ含む）、「設定」または「試験」にし再度「通常」に戻したとき、通報条件がそろっていれば監視開始の通報を行います。

3. 2 自動応答動作

自動応答動作は電話機（簡易遠隔制御）、PR-3000、PR-6000、PR-7000の各受信装置からP-3000モード、P-6000モードにて行うことができます。（P-2000モードではできません）

3. 2. 1 簡易遠隔制御（テレコントロール）

(1) 概要

- ・プッシュホン信号を送出できる電話機から本装置を呼び、本装置の制御出力リレーを動作・復旧させることができます。
- ・動作条件：①「常時遠隔制御」に設定されている場合
②「監視中のみ簡易遠隔制御」に設定されている場合で装置の状態が監視中である時。

(2) 自動応答

- ・プッシュホン信号を送出できる電話機から本装置を呼び出すと、本装置は設定された回数だけ着信信号を認識したあと、回線を閉結します。
- ・応答メッセージを送出するように設定されている場合は、応答メッセージを出力したあと暗証番号受付可能となります。
- ・応答メッセージを送出しないように設定されている場合は、直ちに暗証番号受付可能になります。

(3) 暗証番号の認識

- ・暗証番号受付可能になってから30秒以内に、暗証番号（電話機からのプッシュホン信号）の認識を行います。（暗証番号は0000～9999まで任意に設定可能）
- ・30秒以内に暗証番号を認識すると、暗証番号認識音を送出します。

- ・暗証番号は4桁とし、桁間が3秒空くか、“*”または“#”信号を認識すると、それまで入力されたデータは消去します。暗証番号は、4桁のプッシュホン信号入力後3秒以上空くことによって4桁を認識します。
- ・暗証番号違いを2回認識すると、終了音を送出して回線を開放します。





(4) 制御コードの認識

- ・暗証番号を認識したら、制御コード（電話機からのプッシュホン信号）の認識を行います。
- ・制御コードを認識すると、制御確認メッセージを送出します。
- ・制御コードは2桁とし、桁間が3秒空くか、“*”または“#”信号を認識すると、それまでに入力されたデータは消去されます。このときは再度初めから制御コードを入れてください。制御コードは、2桁のプッシュホン信号入力後3秒以上空くことによって2桁を認識します。誤った制御コードを認識すると、「ピピピピ」とエラー音を送出します。
- ・プッシュホン信号が25秒間ないと、終了警告音を送出します。
- ・プッシュホン信号が30秒間ないか、回線閉結後3分間経過すると、終了音を送出して回線を開放します。但し、音声送出中にタイムアップした場合は、送出後に回線を開放します。

簡易遠隔制御における音声メッセージ（1）

状態	音声メッセージ/プッシュホン信号音
暗証番号認識音	ピピピ
制御コード誤り	ピピピピピ
終了警告音	ピピ
終了音	ピー

簡易遠隔制御における音声メッセージ（2）

	動 作
1	<p>制御1～8の時（但し、制御3～8は制御出力増設ユニット実装時のみ有効）</p> <p>制御コード入力</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  1桁目 </div> <div style="text-align: center;">  2桁目 </div> </div> <p>制御番号（n） 0：復旧しました。 1：動作しました。 2：動作しています。 又は 復旧しています。</p> <p>例1 1桁目：2 2桁目：1の時 制御2が動作した後、「<u>制御2が</u> <u>動作しました</u>」 のメッセージが電話機より出力される。 1桁目 2桁目</p>
2	<p>現在のセンサ状態</p> <p>制御コード入力</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  1桁目 “9” </div> <div style="text-align: center;">  2桁目 “9” </div> </div> <p>「IDメッセージまたは端末番号」と「動作中のセンサ番号」を出力する。 動作中のセンサがなければ「IDメッセージ」または「端末番号のみ」</p>

3. 2. 2 PR-3000 (P-3000モード)

(1) 概要

- ・PR-3000からのセンサ状態確認・制御出力の呼び出しに自動応答し、その時PR-3000からの制御出力またはセンサ状態確認のコマンドを受信し、それに従いリレー出力あるいはセンサ情報送信を行います。センサ情報確認については「監視／解除」の状態に関係なく全てのセンサおよび機器信号を送信します。
- ・動作条件：①「常時P-3000モードによる応答」に設定されている場合。
②「監視中のみP-3000モードによる応答」に設定されて装置が監視中の場合。
- ・暗証番号は「0000」～「9999」の4桁です。

(2) 自動応答

- ・PR-3000から本装置に発信をおこなうと、本装置は設定された回数だけ着信信号を認識した後、回線を閉結します。
- ・応答は、P-3000モードにて行います。

3. 2. 3 PR-6000およびPR-7000 (P-6000モード)

(1) 概要

- ・PR-6000およびPR-7000からのセンサ状態確認・制御出力の呼び出しに自動応答し、その時PR-6000およびPR-7000からの制御出力又はセンサ状態確認のコマンドを受信し、それに従いリレー出力あるいはセンサ情報送信動作をおこないません。センサ情報確認については「監視・解除」の状態に関係なく全てのセンサおよび機器情報を送信します。
- ・動作条件：①「常時P-6000モードによる応答」に設定されている場合。
②「監視中のみP-6000モードによる応答」に設定されて監視中の場合。
- ・暗証番号は「0000」～「9999」の4桁です。

(2) 自動応答

- ・PR-6000およびPR-7000から本装置に発信をおこなうと、本装置は設定された回数だけ着信信号を認識した後、回線を閉結します。
- ・応答は、P-6000モードにて行います。

4. 付属品および添付品

4. 1 付属品

①PT-5500電池組立 (PWL 12V 1. 2)	1個
②電池押さえ板	1枚
③電池押さえ板取付用ネジ (SEM5-3×8)	2本
④本体用鍵 (NO. 3556)	2個
⑤ヒューズ (125V 2A SLOW)	2個
⑥木ネジ (WR (+) 4. 1× 20S)	3本

4. 2 添付品

①取扱説明書および保証書 (本書)	1冊
(注) 保証書は74ページにあります	

第4章 取り付け工事とデータの登録

【お願い】

- ① 工事を行う前に必ずお読みになり、正しく施工してください。
- ② 関連法規を厳守してください。特に、次の法令は関係が深いのでご承知ください。
 - 電気通信事業法および端末設備等規則
 - 電気設備に関する技術基準および内線規定
 - 消防法
 - NTT電話サービス契約約款
- ③ パトホンは、利用のしかたに応じて、データを設定登録していただくことで動作するように製作されておりますので、使用条件を正しく設定登録してください。完了した後も使用条件が変更されることがありますので、データ設定一覧表は本体の側に置き、いつでも確認できるようにしてください。

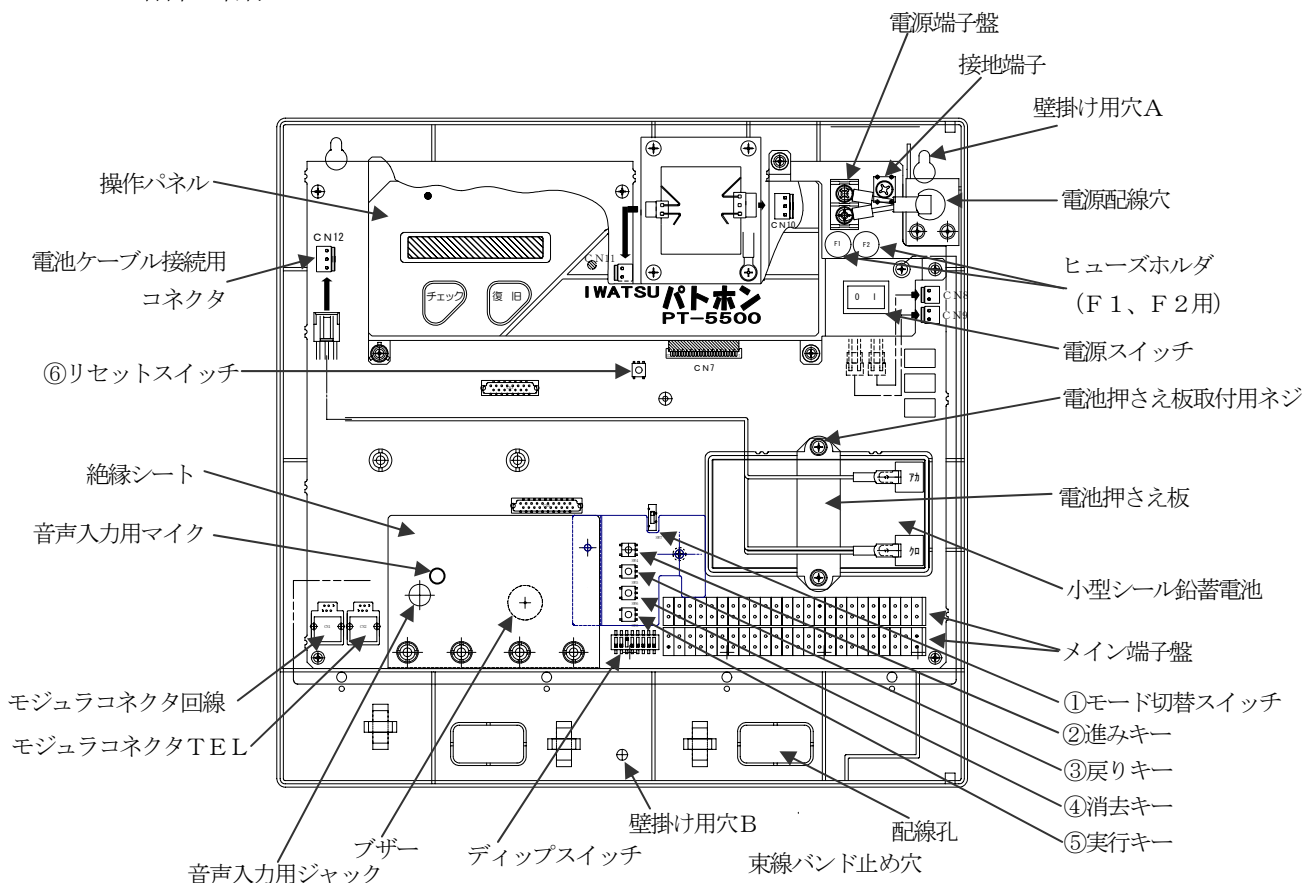
1. 準備

1. 1 取り付け場所の選定と電源工事

1～5ページの「警告」「注意」「お知らせ」「お願い」と下記の各項目に注意し、お客様のご理解を得て取り付けてください。

- ① 各配線が最短距離で配線できるような位置を選定してください。
- ② 本体の左右・上下にサービススペースを確保してください。

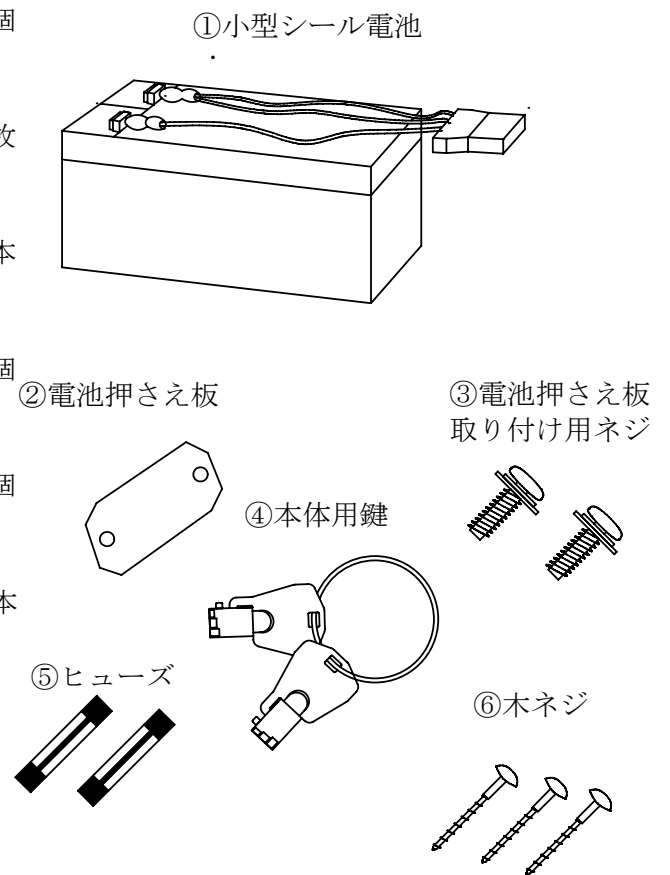
1. 2 各部の名称



- ①モード切り替えスイッチ
通常：監視モードの位置
試験：試験モードの位置
設定：データ設定モードの位置
- ②進みキー
設定モードで使用する進みステップ
- ③戻りキー
設定モードで使用する戻りステップ
- ④消去キー
設定モードで使用する消去ステップ
- ⑤実行キー
設定データを登録するスイッチ
- ⑥リセットスイッチ
装置初期化

1. 3 付属品明細

- ①小型シール電池 _____ 1個
(PWL 1 2 V 1. 2) (本体に実装済み)
- ②電池押さえ板 _____ 1枚
(本体に実装済み)
- ③電池押さえ板取付用ネジ _____ 2本
(SEM5-3×8) (本体に実装済み)
- ④本体用鍵 (NO. 3 5 5 6) _____ 2個
- ⑤ヒューズ _____ 2個
(1 2 5 V 2 A S L O W)
- ⑥木ネジ (WR (+) 4. 1 × 2 0 S) - 3本



1. 4 工事用工具と用品

(1) 工具等

通常の電話工事等で使用する工具のほかに、特に次の物を準備してください。

- | | |
|---------------------------------|------|
| ①単独電話機 (PB) (データの設定用) | 1台 |
| ②ドライバー (マイナス、刃先幅2.6mm 軸径3mm) | 1本 |
| ③束線バンド (コンベックス CV-200 北川工業相当品) | 2-3本 |

(2) 配線材料等

線種の指定はありませんが、合成樹脂で絶縁された通信電線で、JIS規格品をご使用ください。現地の状況に応じて、より線又はシールド線、耐熱電線等をご使用ください。接地線には、600Vビニール絶縁電線1.6mmで緑色に黄色の線の入ったものをご使用ください。なお、直流抵抗値(ループ)は、感知器(リレー)等の抵抗値を含めて400Ω以下とし、線径は0.4~0.9mmのものを採用してください。

1. 5 電気的条件

(1) 警報・監視入力(センサ)入力又は計数入力条件

①無電圧接点入力です。

有電圧の場合は、設備機器側で一度リレーで受けて、無電圧接点に変換してください。(絶対に電圧を印加しないでください。)

②防犯用のセンサを接続される場合は、別途防犯表示装置(回線表示装置)を設置されることを推奨します。

③ループ抵抗は400Ω以下です。

(2) 制御出力条件

①無電圧の動作(メーク)接点で出力します。接点定格は、DC50V 0.2A 以下です。

②簡易遠隔制御/P-3000/P-6000の場合は動作(メーク)接点が連続保持または1/2/5/10秒のパルスで出力します。

③設備機器側で制御回路を構成してください。

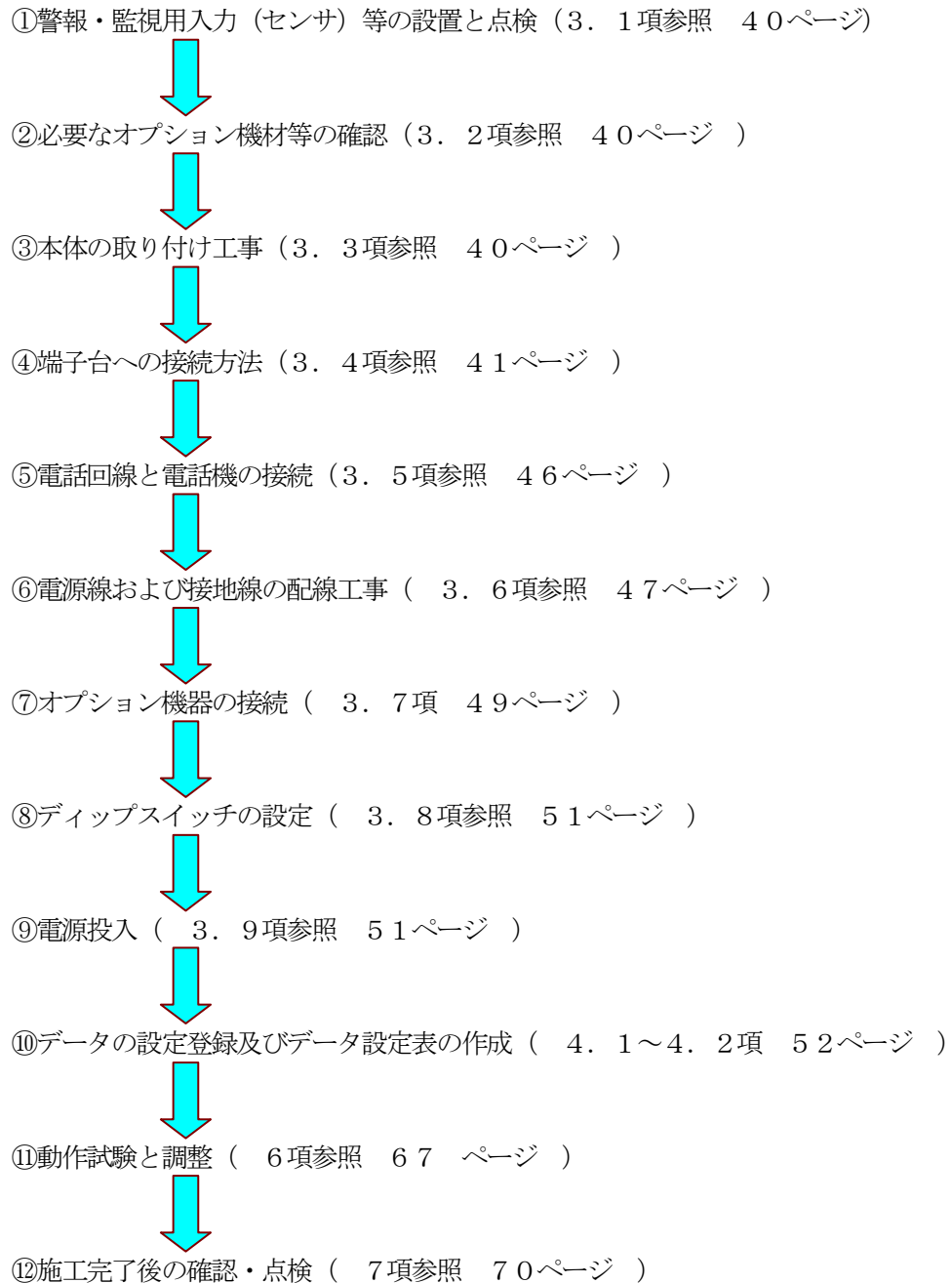
(3) 外部出力条件

①外部出力とは、パトホンが動作したことを知らせる動作(メーク)接点出力です。本体のブザー鳴音条件と連動しています。

②接点定格は、DC50V 0.2A です。

③この接点を使用して各種警報装置等を駆動させる場合は、リレーで受けてから駆動させてください。(パトホンから供給できる電源はありません)

2. 施工手順



3. 取り付け

3. 1 警報・監視入力（センサ）等の設置と点検

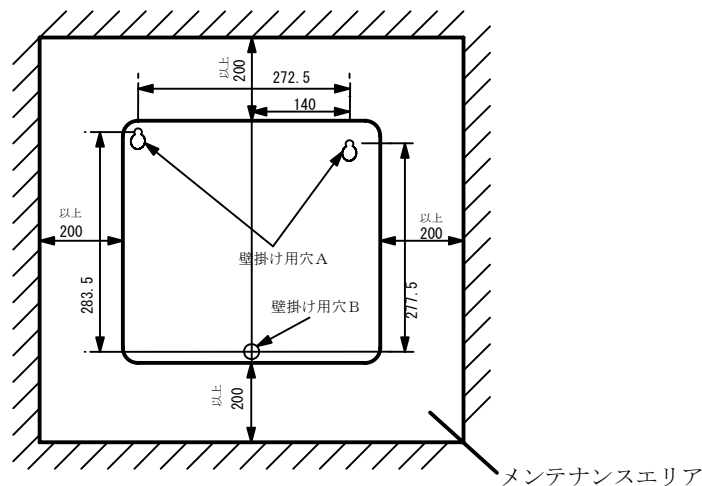
- ①電気機械設備や動力設備等の監視・制御盤から入力される場合は、動作条件が定められていますので十分に確認してインタフェースしてください。特に無電圧であることを確認してください。
またその他の装置と並列に入力しないでください。
- ②防犯用の各種侵入センサを接続される場合は、取扱説明書をよくお読みになり、正しく工事をしてください。特に、センサ条件をよく確認し誤報とならないようにし、できるだけブレーク（b接点）としてご使用ください。
- ③センサ用電源は、パトホンからは供給できませんので別に準備してください。

3. 2 オプションに関する注意

品 名	メッセージ通報	信号通報
(1) 本体に実装して使用するもの		
①センサ入力拡張ユニット PT-5503	○	○
②制御出力ユニット PT-5504	○	○
③計数入力ユニット PT-5506	×	○
(2) 本体の外付けとして使用するもの		
①リモコンボックス PC-2080	○	○
②キースイッチ KE-500R (※)	○	○

(※) 竹中エンジニアリング（株）製です。

3. 3 本体の取り付け工事



(1) 本体の取り付け工事

- ①壁面に本体外形より30cm以上大きな木板を固定します。
- ②木板のAの位置に、本体を取り付けるための木ネジ（添付品）をねじ込みます。
(木ネジの突き出しは、10～15mm程度です。)
- ③木ネジにパトホンを引っ掛けてください。 Bに位置に木ネジをねじ込みます。
(木ネジの締め付けは、配線の引き込みが終わってから行います。)

(2) 配線の引き込みと穴の開け方

①配線孔の位置

配線孔は底面に2ヶ所、側面に3ヶ所の計5ヶ所あります。

②配線孔をあける前に

どの配線孔を使用して入力線を接続するか十分検討の上、決定してください。

配線孔は一度開けてしまいますと修復できませんので、ご注意ください。

③配線孔の開け方

底面の配線孔をあける場合は、本体を裏返しにして表面に傷が付かないよう注意しながらカッターで切り欠きます。側面の配線孔は、機器内部より下部つなぎをニップ等で切断し、板を外へ押し出すと上部つなぎがとれます。残ったバリはカッターナイフ等できれいに取り除いてください。

3. 4 端子台への接続方法

(1) 端子台への接続方法

端子台へ接続するにはマイナスドライバー（軸径φ3.0、刃先2.6mm）を使用します。マイナスドライバーを端子台の着脱ボタンに差し込み、押す方向に力を加えると端子台の入り口が開きますので線材を入れ、力を加えるのをやめます。マイナスドライバーに無理な力を加えますと端子台が破損する場合がありますので慎重に取り扱ってください。線材の標準剥き線長は8mmです。

(2) 端子台の番号表を 表3.4 に示す。

表3. 4 端子番号表

メイン基板

センサ 入力 (メイン基板)		
端子板番号		入力名称
TA1 1	— TA2 1	センサ 1
TA1 2	— TA2 2	センサ 2
TA1 3	— TA2 3	センサ 3
TA1 4	— TA2 4	センサ 4
TA1 5	— TA2 5	センサ 5
TA1 6	— TA2 6	センサ 6
TA1 7	— TA2 7	センサ 7
TA1 8	— TA2 8	センサ 8

リモコンボックス/キースイッチ (メイン基板)		
端子板番号	入出力名称	
	リモコンボックス	キースイッチ
TA1 9	G (SEG)	使用禁止
TA1 10	AL	使用禁止
TA1 11	GDL	使用禁止
TA1 12	BZ	使用禁止
TA1 13	CKL	使用禁止
TA1 14	AG	使用禁止
TA2 9	GD	使用禁止
TA2 10	NG	NG
TA2 11	R_CHK	使用禁止
TA2 12	CCI	CCI
TA2 13	CCO	CCO
TA2 14	AG	使用禁止

外部出力/制御出力 (メイン基板)	
端子板番号	入出力名称
TA1 17	使用禁止
TA1 18	使用禁止
TA1 19	S01_2
TA1 20	S01_2
TA1 21	G01_2
TA1 22	G02_2
TA2 17	使用禁止
TA2 18	使用禁止
TA1 19	S01_1
TA1 20	S01_1
TA2 21	G01_1
TA2 22	G02_1
TA1 15/16	EXT_GND
TA2 15/16	EXT_12V
TA1 23/24	使用禁止
TA2 23	TD_O
TA2 24	使用禁止

※リモコンボックスとキースイッチはディップスイッチにより切り替え。

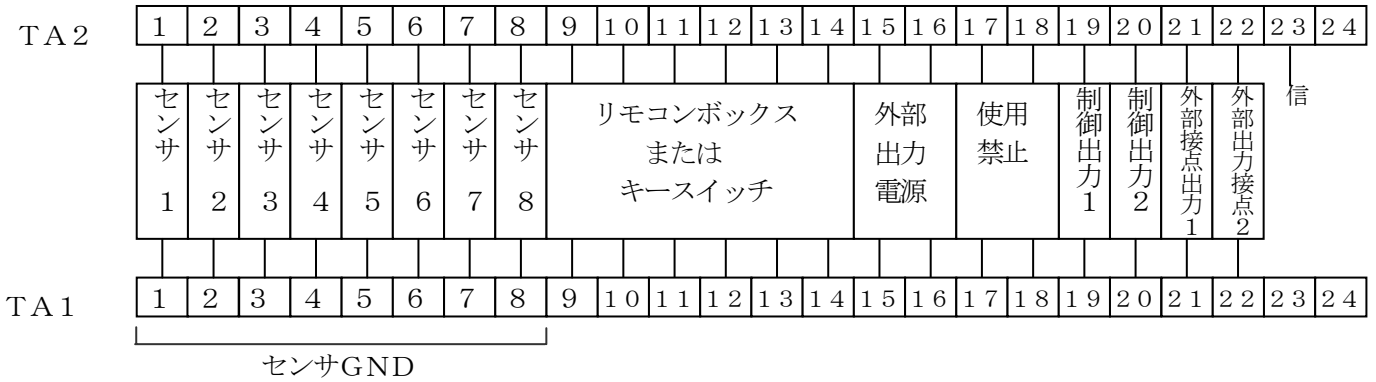
拡張ユニット (オプション)

センサ入力ユニット (オプション基板)					
端子板番号		入力名称			
TA1	1	— TA2	1	センサ	9
TA1	2	— TA2	2	センサ	10
TA1	3	— TA2	3	センサ	11
TA1	4	— TA2	4	センサ	12
TA1	5	— TA2	5	センサ	13
TA1	6	— TA2	6	センサ	14
TA1	7	— TA2	7	センサ	15
TA1	8	— TA2	8	センサ	16
TA3	1	— TA4	1	センサ	17
TA3	2	— TA4	2	センサ	18
TA3	3	— TA4	3	センサ	19
TA3	4	— TA4	4	センサ	20
TA3	5	— TA4	5	センサ	21
TA3	6	— TA4	6	センサ	22
TA3	7	— TA4	7	センサ	23
TA3	8	— TA4	8	センサ	24

制御出力ユニット (オプション基板)					
端子板番号		入力名称			
TA1	1	— TA2	1	センサ	9
TA1	2	— TA2	2	センサ	10
TA1	3	— TA2	3	センサ	11
TA1	4	— TA2	4	センサ	12
TA1	5	— TA2	5	未接続	
TA1	6	— TA2	6	未接続	
TA1	7	— TA2	7	未接続	
TA1	8	— TA2	8	未接続	
TA3	1	— TA4	1	制御出力	3
TA3	2	— TA4	2	制御出力	4
TA3	3	— TA4	3	制御出力	5
TA3	4	— TA4	4	制御出力	6
TA3	5	— TA4	5	制御出力	7
TA3	6	— TA4	6	制御出力	8
TA3	7	— TA4	7	未接続	
TA3	8	— TA4	8	未接続	

計数入力ユニット (オプション基板)					
端子板番号		入力名称			
TA1	1	— TA2	1	センサ	9
TA1	2	— TA2	2	センサ	10
TA1	3	— TA2	3	センサ	11
TA1	4	— TA2	4	センサ	12
TA1	5	— TA2	5	未接続	
TA1	6	— TA2	6	未接続	
TA1	7	— TA2	7	未接続	
TA1	8	— TA2	8	未接続	
TA3	1	— TA4	1	加算	1
TA3	2	— TA4	2	減算	1
TA3	3	— TA4	3	クリア	1
TA3	4	— TA4	4	未接続	
TA3	5	— TA4	5	加算	2
TA3	6	— TA4	6	減算	2
TA3	7	— TA4	7	クリア	2
TA3	8	— TA4	8	未接続	

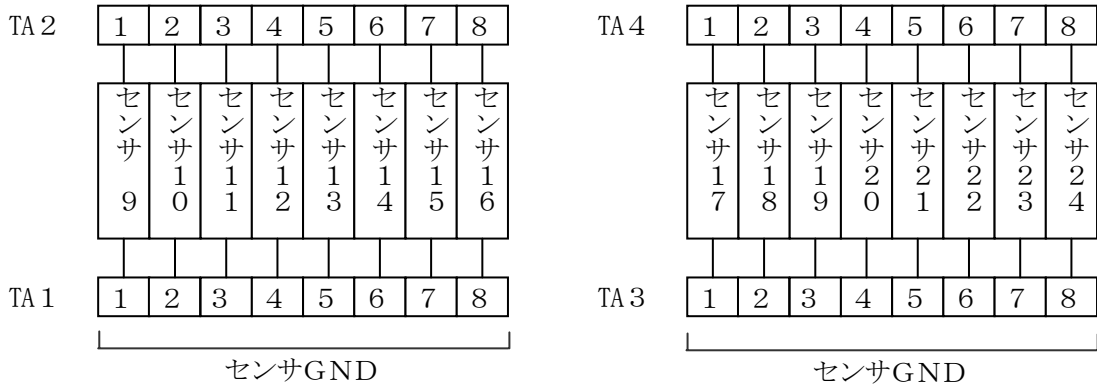
①TA1、TA2 端子



②センサ入力ユニット PT-5503 (オプション)

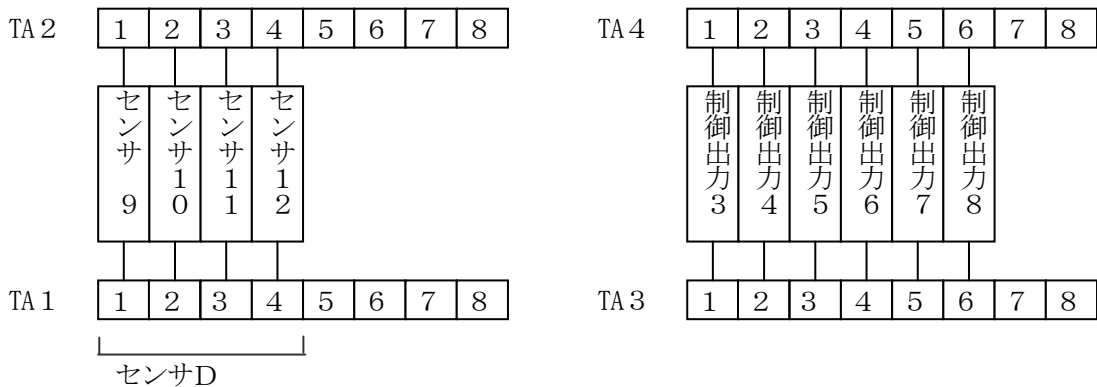
センサ入力ユニットPT-5503 (オプション) はCN13に差し込み、添付されているネジ (SEM5、3×8) 2本で実装します。(指定ネジ以外は使用しないでください。)

センサ入力拡張ユニット PT-5503端子配置図



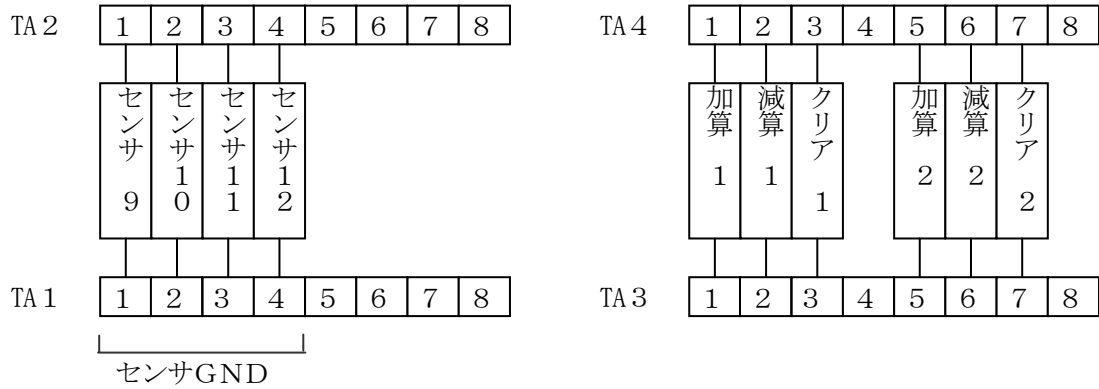
③制御出力ユニット PT-5504 (オプション)

1. 制御出力ユニットはCN13に装着します。その後、制御出力ユニットに添付されているネジ (SEM5 3×8) 2本で固定します。(指定ネジ以外は使用しないでください。)
2. 制御出力はリレー接点です。定格負荷DC 50V 0.2A以下 でご使用ください。



④計数入力ユニット PT-5506 (オプション)

1. 計数入力ユニットPT-5506 (オプション) はCN13に差し込み、添付されているネジ (SEM5、3×8) 2本で実装します。(指定ネジ以外は使用しないでください。)



(注) 本体内部で加算値および減算値のクリアは行わないため、必ずクリア1、クリア2にクリア信号を入れるようにしてください。

3.5 電話回線と電話機の接続

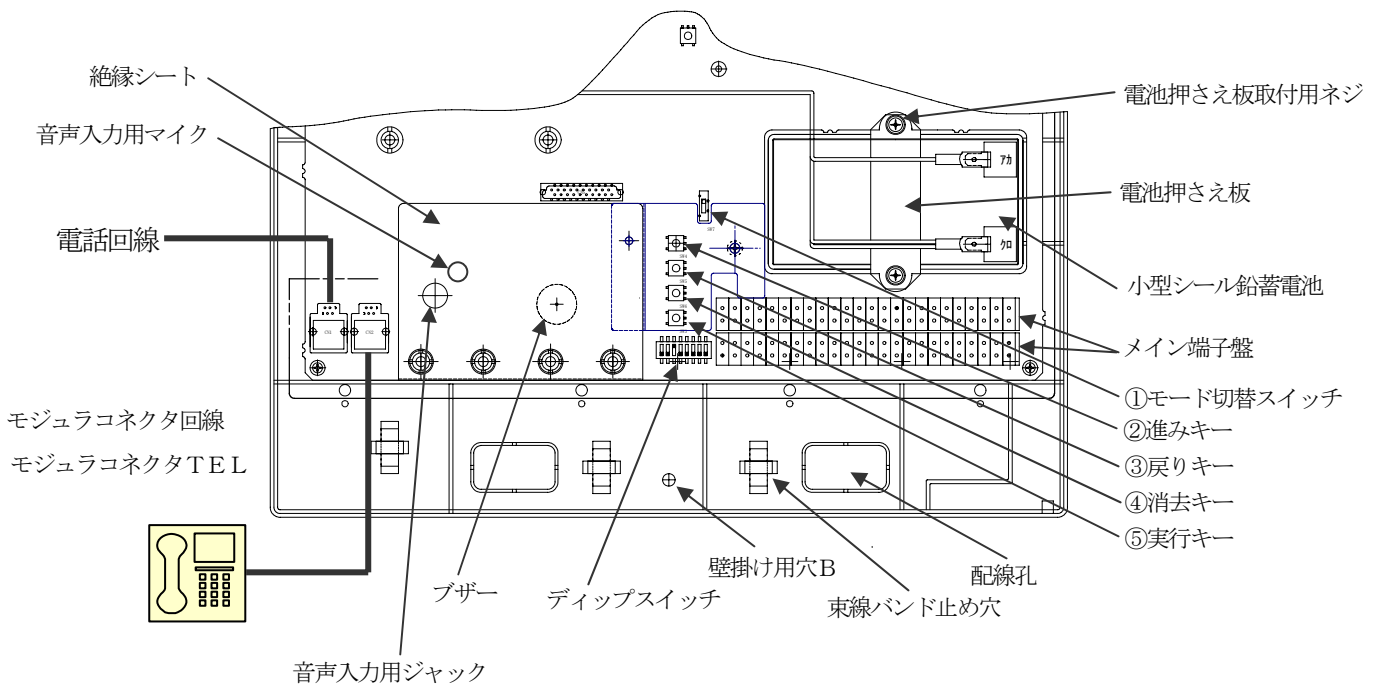
【ご注意】

PBXあるいはボタン電話装置等の内線に接続される場合は、メーカーおよび各機種によって技術的な差異がありますのでご注意ください。必ず次の条件を満たしてください。

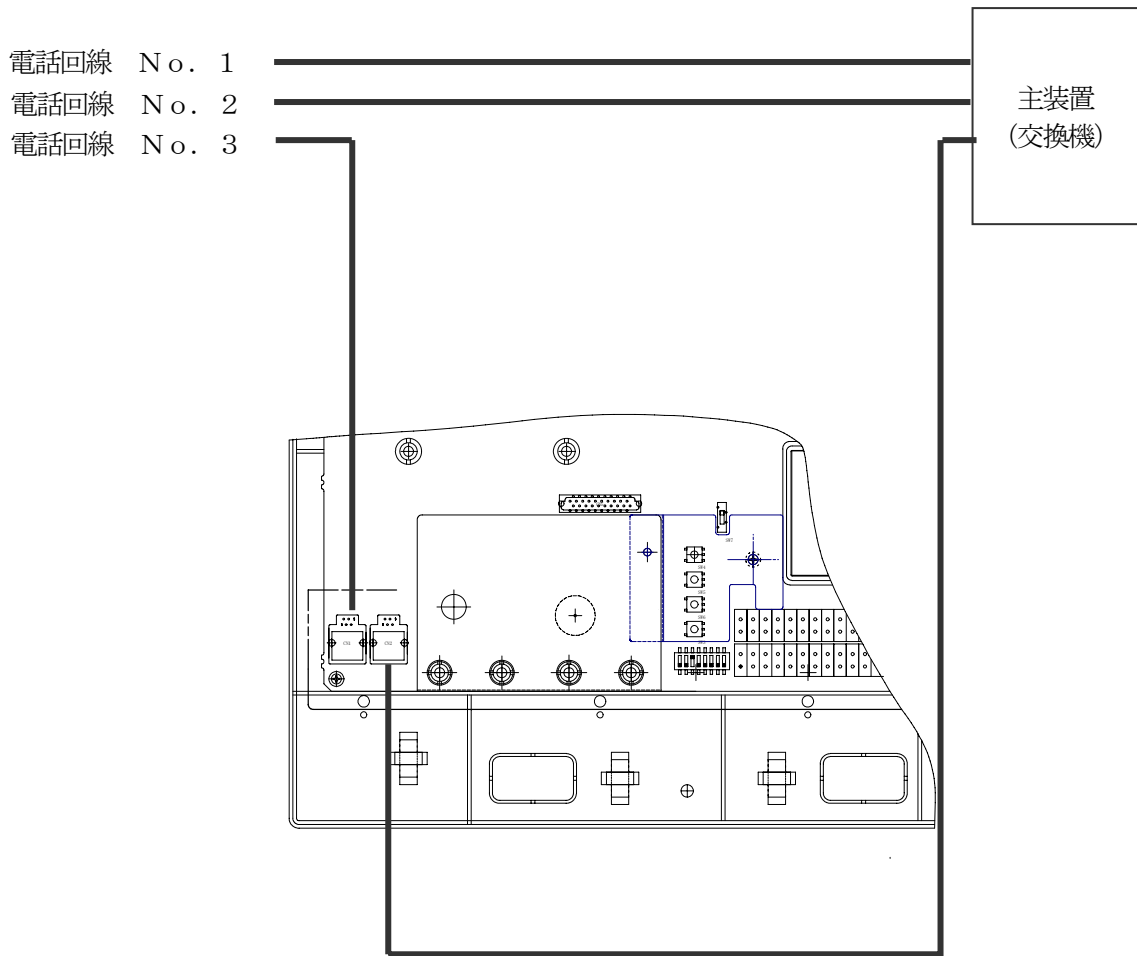
- ① 48V方式のアナログ回線でご使用ください。
- ② 相手応答による極性反転信号が得られること。
- ③ 着信音についてのPBXからの呼び出し音の送出レベルは、16~20Hz 60Vrms以上であること。
- ④ 電話機は、50Vrms以下で鳴音すること。

(1) 電話回線の接続

① 単独電話回線に接続する場合。



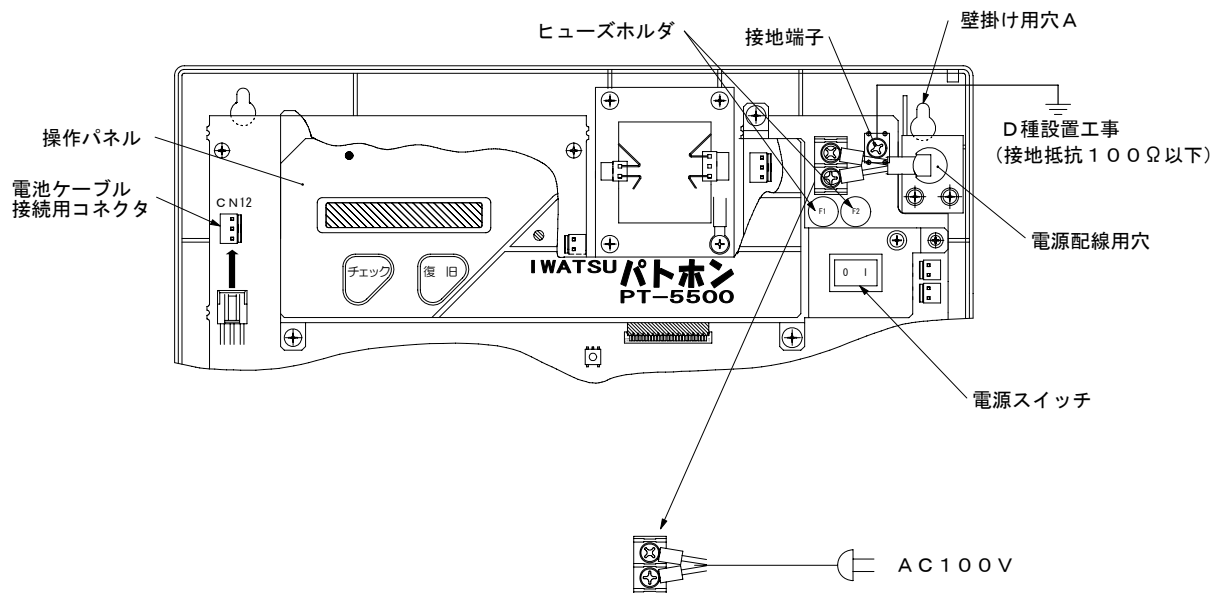
②ボタン電話装置（構内交換機）の局線に接続する場合



3. 6 電源線および接地線の配線工事

【ご注意】

- ① 商用電源（AC100V）配線は、ブレーカー直結の専用配線としてください。また、コンセントは、着脱防止型を採用してください。
- ② 商用電源には、落雷時の被害防止のためにも、別途、サージアブソーバーを取り付けることを奨励します。
- ③ D種接地は必ず行ってください。
- ④ アース接続は必ず、電源プラグを電源に接続する前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から抜いてから行ってください。
- ⑤ 接地線は600Vビニール絶縁電線1.6mmで緑色に黄色線の入った線を使用してください。

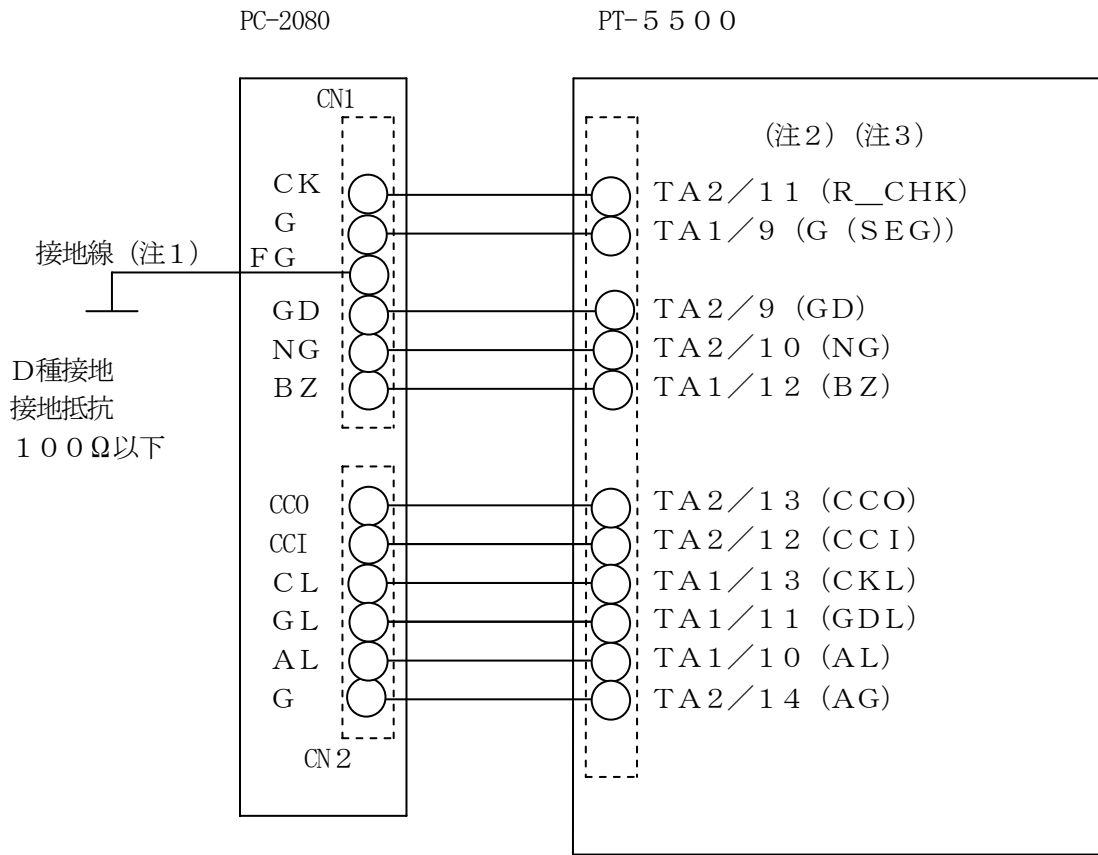


(1) 電源線AC100Vの配線

- ①PT-5500本体のAC電源をOFFにしてください。
- ②電源端子カバー(透明)を外してください。
- ③接地線を装置のFGに接続します。
- ④感電防止のために電源端子板カバーを忘れずにつけてください。
- ⑤電源コードをコンセントに差し込みます。
- ⑥電源スイッチはOFFにしておいてください。

3. 7 オプション機器の接続

(1) リモコンボックスPC-2080の配線

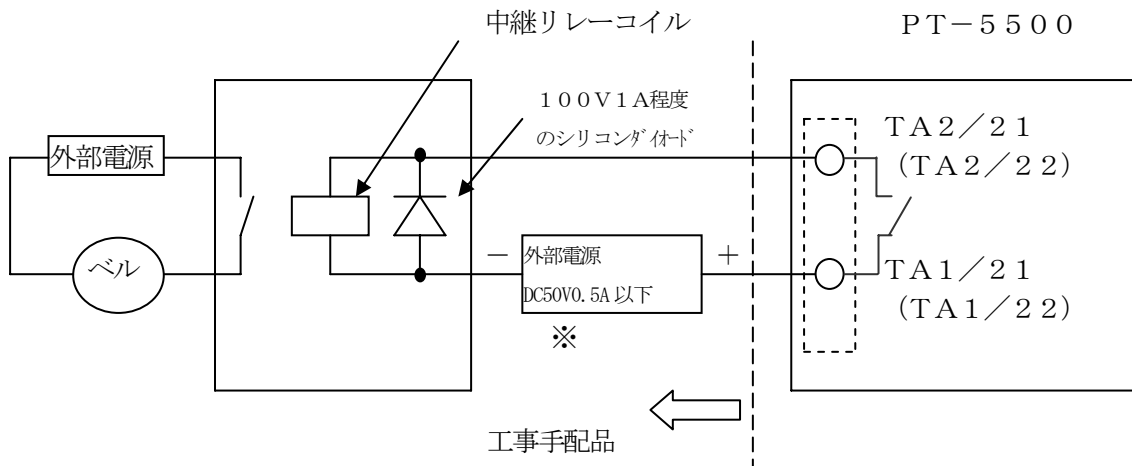


(注1) 接地線は600Vビニール絶縁電線で緑色に黄色の線の入った電線を使用してください。

(注2) TA1/1 は端子台1の1番を示します。

(注3) 接続端子横の () 内表示は、上ケース裏にある工事シールの表示になります。

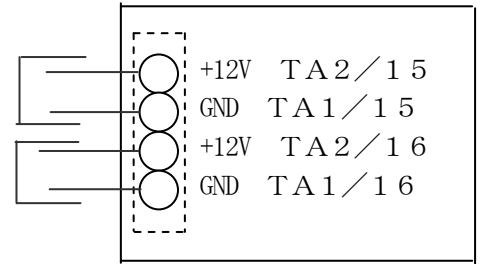
(2) 外部接点出力



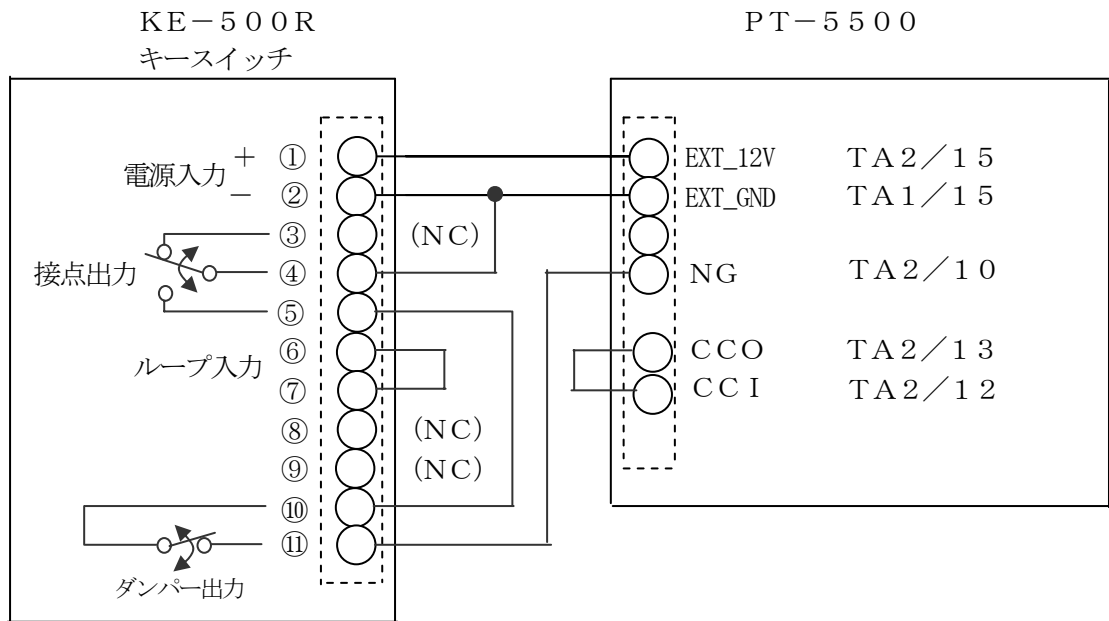
(注) 外部電源の代わりにPT-5500の外部出力電源に接続して使用することは可能ですが、接続先の仕様や規格、また外部出力電源の電圧、電流値の規格に適合しているか確認して接続して下さい。

(3) 外部出力電源

外部出力電源は2組あります。(TA2/15とTA2/16は本体内部で接続されています)
 12Vの定格 11±2V 200mA MAX (2組合計)
 但し、上記規格はリモコンボックス、警報ベル、被制御機器(キースイッチ)等を接続しない場合です。
 例えば、リモコンボックス1台使用すると、出力可能電流は150mAに減りますので注意して下さい。



(4) キースイッチ<KE-500R>の接続



機能に制限(例えば、断線通報できない)があります。接続の際はお問い合わせください。

(注1) ディップスイッチ(S2)の4番をONにすること。

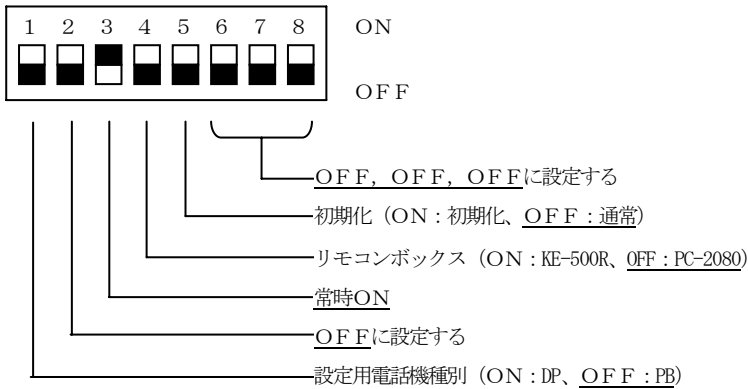
(本章 3.8 ディップスイッチの設定 参照)

3. 8 ディップスイッチの設定

【ご注意】

設定用電話機種別は登録設定に使用する電話機に合わせてください。登録設定の途中で電話機を取換えな
いでください。

1) 本体側



(注) 工場出荷時はアンダーラインに設定してあります。

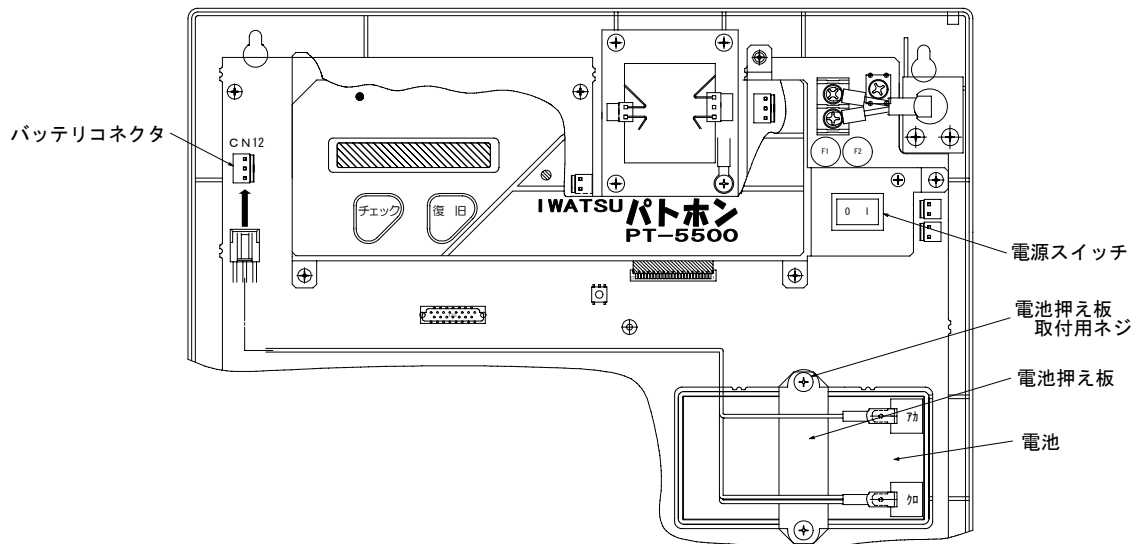
3. 9 電源投入

(1) 電源投入

- ①モード切替スイッチを「設定」にし、電源スイッチを「ON」にしてください。LCD表示器に “モード1” と表示されれば、設定モードになったことを示します。
(電源ON時のランプ表示は、第5章 1. 4 ランプ表示 参照)
- ②異常がある場合には電源スイッチを「OFF」にし、バッテリーコネクタをはずしてから配線のチェックをしてください。
- ③一度、電源スイッチを切ってください。

(2) 予備電池の接続

添付品の電池を、CN12と接続してください。コンセントを抜いたとき、予備電池が働きます。但し、予備電池が放電してしまっている場合は、充電が完了するまで約1週間必要です。



4. データの設定登録

4. 1 通報条件等データ設定表の作成

(1) データシートの作成

【ご注意】

音声通報方式でデータ設定登録して、音声通報ユニットに録音を使用しなかった場合は、工場で録音してあります固定メッセージで通報されます。

モード1 回線データ

①電話回線のダイヤル種別 (カイセン) 10PPS 20PPS PB

②端末 (ID) 番号の登録番号 (タンマツNO)

③相手通報先の受信機指定

- | | |
|------------|------------|
| 1 : 通報先切替無 | ・個別通報 |
| 2 : 通報先切替無 | ・グループOR通報 |
| 3 : 通報先切替無 | ・グループAND通報 |
| 4 : 通報先切替有 | ・個別通報 |
| 5 : 通報先切替有 | ・グループOR通報 |
| 6 : 通報先切替有 | ・グループAND通報 |

④通報方式と通報先の電話番号について

通報方式とは上記6種類あります。

個別通報とは、1つの警報・監視 (センサ) 入力に対して1ヶ所に通報します。

グループOR通報では、1つの警報・監視 (センサ) 入力に対して8ヶ所 (最大) の内いずれか1ヶ所に通報します。

グループAND通報では、1つの警報・監視 (センサ) 入力に対して8ヶ所 (最大) 全てに通報します。

通報先切替有とは、リモコンボックスによって設定される「監視」または「解除」で通報先を切替えます。但し、これらの通報は相手先不応答の場合通報1ヶ所につき最大3回、信号通報時最大30回の通報で終了となります。

監視／解除、定時通報、リモコンボックス断線、バッテリー切れ通報、停電通報は個別通報だけでグループ通報や通報先の切替はできません。

個別通報切替無し	個別通報切替有り	グループ通報切替無し	グループ通報切替有り	通報先の電話番号	
S01	解除時のS01	グループ1の通報先A	グループ1の通報先A	T01	□□□□□□□□□□□□□□□□
S02	監視時のS01	グループ1の通報先B	グループ1の通報先B	T02	□□□□□□□□□□□□□□□□
S03	解除時のS02	グループ1の通報先C	グループ1の通報先C	T03	□□□□□□□□□□□□□□□□
S04	監視時のS02	グループ1の通報先D	グループ1の通報先D	T04	□□□□□□□□□□□□□□□□
S05	解除時のS03	グループ2の通報先A	グループ2の通報先A	T05	□□□□□□□□□□□□□□□□
S06	監視時のS03	グループ2の通報先B	グループ2の通報先B	T06	□□□□□□□□□□□□□□□□
S07	解除時のS04	グループ2の通報先C	グループ2の通報先C	T07	□□□□□□□□□□□□□□□□
S08	監視時のS04	グループ2の通報先D	グループ2の通報先D	T08	□□□□□□□□□□□□□□□□
S09	解除時のS05	グループ3の通報先A	グループ3の通報先A	T09	□□□□□□□□□□□□□□□□
S10	監視時のS05	グループ3の通報先B	グループ3の通報先B	T10	□□□□□□□□□□□□□□□□
S11	解除時のS06	グループ3の通報先C	グループ3の通報先C	T11	□□□□□□□□□□□□□□□□
S12	監視時のS06	グループ3の通報先D	グループ3の通報先D	T12	□□□□□□□□□□□□□□□□
S13	解除時のS07	グループ4の通報先A	グループ4の通報先A	T13	□□□□□□□□□□□□□□□□
S14	監視時のS07	グループ4の通報先B	グループ4の通報先B	T14	□□□□□□□□□□□□□□□□
S15	解除時のS08	グループ4の通報先C	グループ4の通報先C	T15	□□□□□□□□□□□□□□□□
S16	監視時のS08	グループ4の通報先D	グループ4の通報先D	T16	□□□□□□□□□□□□□□□□
S17	解除時のS09	監視/解除の通報先	監視/解除の通報先	T17	□□□□□□□□□□□□□□□□
S18	監視時のS09	定時通報の通報先	定時通報の通報先	T18	□□□□□□□□□□□□□□□□
S19	解除時のS10	リモコンボックス断線の通報先	リモコンボックス断線の通報先	T19	□□□□□□□□□□□□□□□□
S20	監視時のS10	バッテリー切れの通報先	バッテリー切れの通報先	T20	□□□□□□□□□□□□□□□□
S21	解除時のS11	(設定無効)	(設定無効)	T21	□□□□□□□□□□□□□□□□
S22	監視時のS11	(設定無効)	(設定無効)	T22	□□□□□□□□□□□□□□□□
S23	解除時のS12	(設定無効)	(設定無効)	T23	□□□□□□□□□□□□□□□□
S24	監視時のS12	(設定無効)	(設定無効)	T24	□□□□□□□□□□□□□□□□

例1 通報先切替無し・個別通報の場合

S01（警報・監視信号端子番号1）入力により通報先電話番号T01に通報を行います。S04入力ではT04、S05入力ではT05に通報をおこないません。

例2 通報先切替無し・グループOR通報の場合

モード3のグループ設定で“切替無し”に設定されたグループにOR通報を行います。

入力されたセンサのグループ指定が、グループ2の場合、T05>>T06>>T07>>T08の順番で通報動作を行います。そのうち1ヶ所でも正常に通報が終了したとき、通報動作を終了します。

例3 通報先切替無し・グループAND通報の場合

モード3のグループ設定で“切替無し”に設定されたグループにAND通報を行います。

入力されたセンサのグループ指定が、グループ3の場合、T09>>T10>>T11>>T12の順番で通報動作を行います。全ての通報先に正常に通報が終了したとき、通報動作を終了します。

例4 通報先切替有り・個別通報の場合

解除中にS01入力があると、通報先電話番号T01に通報します。監視中にS01があると通報先電話番号T02に通報します。S12以降は全てT01に通報します。

例5 通報先切替有り・グループOR通報

モード3のグループ設定で“切替有り”に設定されたグループにOR通報を行います。

装置が“監視中”の場合、“切替有り、監視中”で設定されたグループにOR通報を行います。

装置が“解除中”の場合、“切替有り、解除中”で設定されたグループにOR通報を行います。

入力されたセンサのグループ指定が、グループ2の場合、T05>>T06>>T07>>T08の順番で通報動作を行います。そのうち1ヶ所でも正常に通報が終了したとき、通報動作を終了します。

例6 通報先切替無し・グループAND通報の場合

モード3のグループ設定で“切替有り”に設定されたグループにAND通報を行います。

装置が“監視中”の場合、“切替有り、監視中”で設定されたグループにAND通報を行います。

装置が“解除中”の場合、“切替有り、解除中”で設定されたグループにAND通報を行います。

入力されたセンサのグループ指定が、グループ3の場合、T09>>T10>>T11>>T12の順番で通報動作を行います。全ての通報先に正常に通報が終了したとき、通報動作を終了します。

モード2 システムデータ

①定時通報条件（テイジ）

(a) 定時情報を接続するセンサ番号 (S) (00~15)

(b) 時間間隔 (:) (001~300)

(c) 条件 (H) 常時 監視 (運転) 中

②リモコンボックスを使用して監視/解除通報する場合

(a) 監視/解除情報を接続するセンサ番号 (00~15)
(リモコン)

③予備電池のギブアップ通報をする場合

(a) ギブアップ情報を接続するセンサ番号 (BG) (00~15)

④リモコンボックスの断線通報をする場合

(a) 断線情報を接続するセンサ番号 (ダンセン) (00~15)

⑤自動応答 (オウトウ)

(a) 自動応答機能の有無

- なし (初期値)
- 監視中のみ自動応答 (簡易遠隔制御)
- 常時自動応答 (簡易遠隔制御)
- 常時P-3000モードによる応答
- 常時P-6000モードによる応答
- 監視中のみP-3000モードによる応答
- 監視中のみP-6000モードによる応答

(b) 自動応答機能有りの場合の着信信号回数
遠方制御をする場合

(01~24)

(c) 応答メッセージ

なし あり

(d) 遠方制御をする場合の暗証番号

(4桁) (0000~9999)

⑥ブザー鳴音時間 (ブザー)

(00: 鳴音せず、01~60秒、
99: 連続)

⑦割り込み機能の有無 (ワリコミ)

なし あり

モード4 録音メッセージの内容

録音したメッセージの内容を下表に記入してください。

LCDの表示内容	設定番号	設定内容 (各5秒間録音可能)
(例)センサメッセージ1=S	(例)01	(例)火災が発生しました。
IDメッセージ		
センサメッセージ1=S		
センサメッセージ2=S		
センサメッセージ3=S		
センサメッセージ4=S		
センサメッセージ5=S		
センサメッセージ6=S		
センサメッセージ7=S		
センサメッセージ8=S		
センサメッセージ9=S		
センサメッセージ10=S		
センサメッセージ11=S		
センサメッセージ12=S		
センサメッセージ13=S		
センサメッセージ14=S		
センサメッセージ15=S		
センサメッセージ16=S		
センサメッセージ17=S		
センサメッセージ18=S		
センサメッセージ19=S		
センサメッセージ20=S		
センサメッセージ21=S		
センサメッセージ22=S		
センサメッセージ23=S		
センサメッセージ24=S		

4. 2 データの設定登録の方法

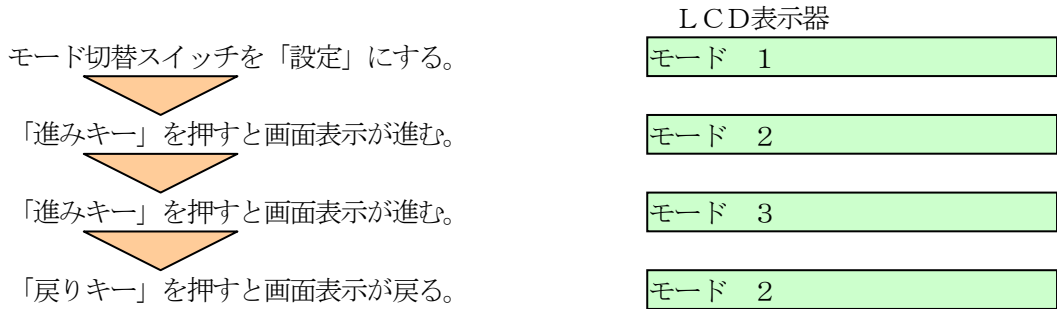
PT-5500のデータ設定は電話機と本体基板にある進みキー、戻りキー、実行キーを用いて行います。

4. 2. 1 準備

- (1) データを登録設定に使用する電話機に合わせて、ディップスイッチSW2を設定してください。
- (2) モード切替スイッチを「設定」に切り換えてください。LCD表示器に「モード1」と表示されます。
また、電源・通報中・異常・監視の各ランプが早い点滅をします。
(第5章 1. 4 ランプ表示 参照)
- (3) モジュラコネクタTELに電話機を接続します。(電話機は初めから接続しておいても問題ありません)

4. 2. 2 設定スイッチの操作方法

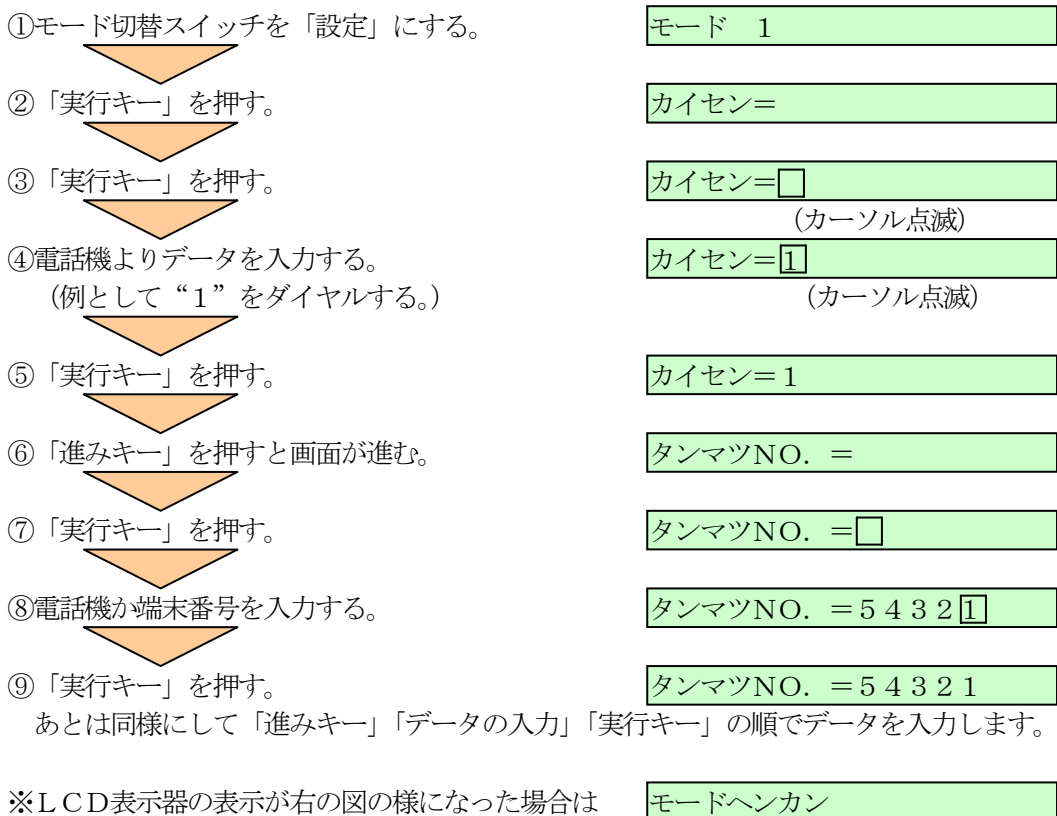
データ設定は、PB式電話機と「進みキー」「戻りキー」「消去キー」「実行キー」「チェックスイッチ」を操作して設定します。



【ご注意】

- ①LCD表示器にカーソルが点滅している状態で、モード切替スイッチを通常に戻さないでください。カーソルの点滅していた設定中のデータは保証できません。
- ②無効データを入力すると「ピピピピ」とエラー音が鳴り、LCD表示器には表示されません。
- ③モード切替スイッチを「設定」から「通常」に戻した後、約5秒間は電源を「OFF」にしないでください。
- ④設定終了後、必ず通常モードにしてから扉を閉めてください。もし、データ不足の場合や「設定/試験モード」のまま扉を閉めようとするとランプが点滅のままで通報ができませんので注意してください。

4. 2. 3 操作の説明



モード1の項目設定が終わるとモード2へ移行します。

①モード1で「モードヘンカン」表示の時
「実行キー」を押す。

モード 2

②「実行キー」を押す。

ページ =S : H:

③「実行キー」を押す。

(モード2の各データを設定登録)

④電話機よりデータを入力。

⑤「実行キー」を押す。

モードヘンカン

⑥「進みキー」を押す。

⑦「モードヘンカン」表示で「実行キー」を押す。

モード 3

⑧「実行キー」を押す。

S 0 1 =

⑨「実行キー」を押す。

(モード3の各データを設定登録)

⑩電話機よりデータを入力する。

⑪「実行キー」を押す。

モード 4

⑫「進みキー」を押す。
「モードヘンカン」表示で「実行キー」を押す。

【録音時の注意】

録音する声は、一般的に男性より女性の方が明瞭度、了解度ともに得られます。

録音用マイクは、PT-5500本体のメイン基板上に取り付けてあります。(37ページ参照)

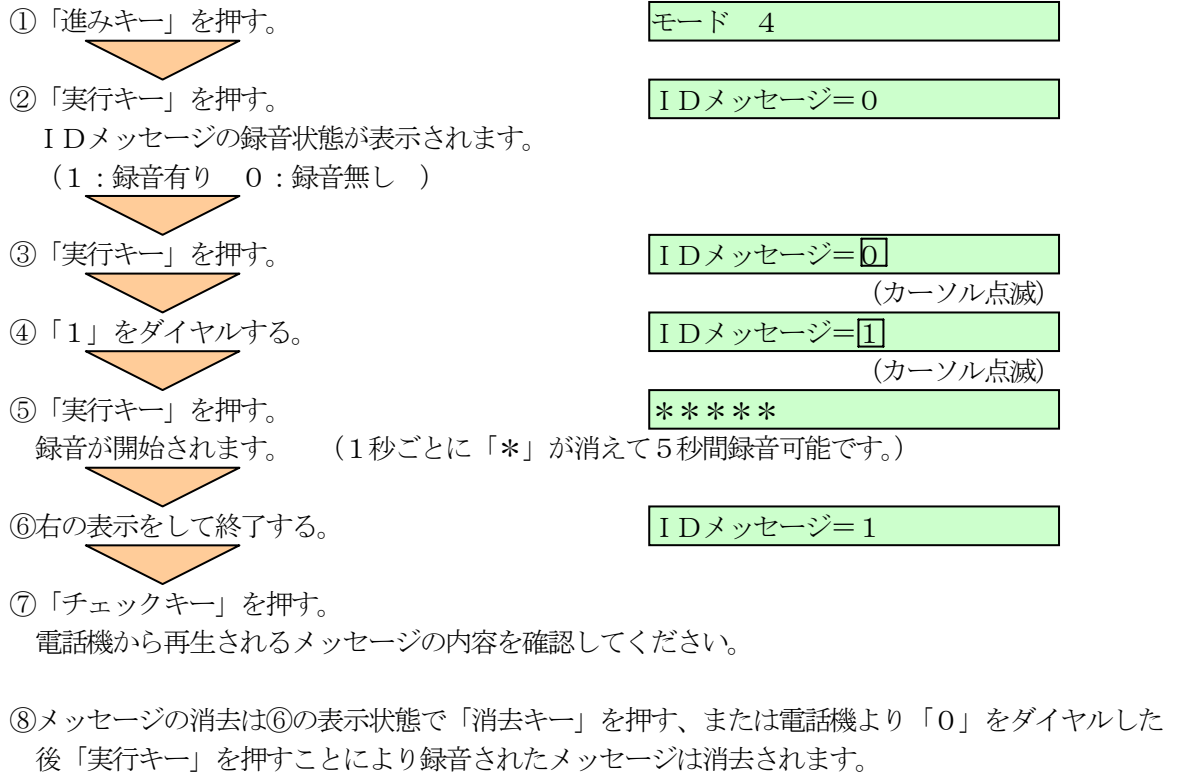
録音のレベルが大きすぎると、メッセージ送出中に音が割れることがあります。再度録音をし直して下さい。

(注意) 電話機からは録音できません。

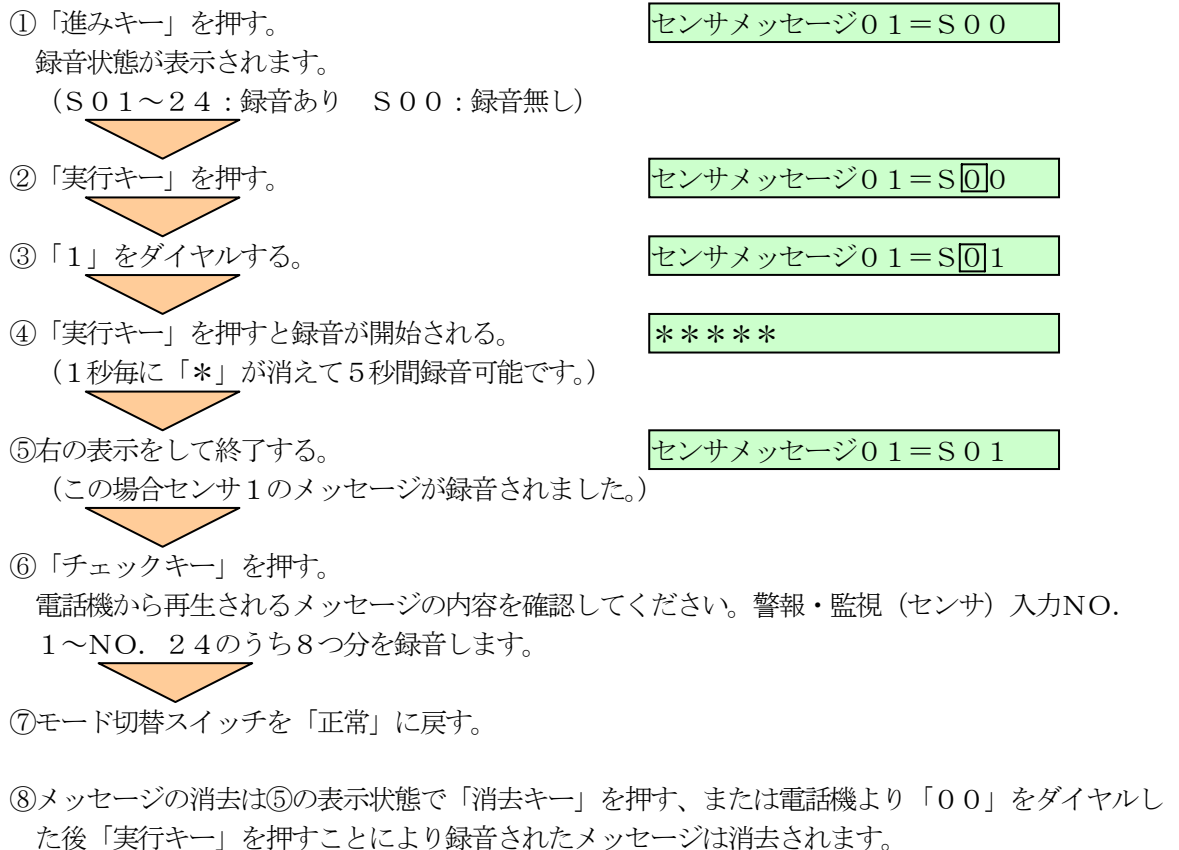
マイク入力の場合・・・マイクに向かって、50cmほど離れて電話で話す位の音量で録音して下さい。

ライン入力の場合・・・ポータブルカセット等のライン出力をジャック(J1)に接続します。なお、ジャックにプラグを接続するとマイク入力は切り離されます。

設置場所 (ID) メッセージの録音/消去

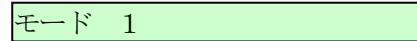


警報・監視 (センサ) メッセージの録音/消去

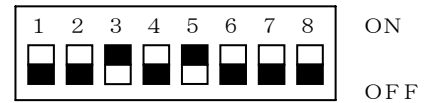


設定データのクリア (全ての設定データを消去)

①モード切替スイッチを「設定」にする。



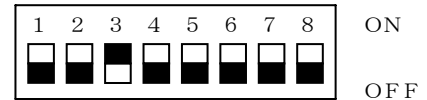
②ディップスイッチ (SW2) を右記の設定にする。



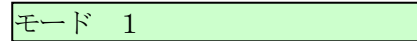
③リセットスイッチを押す。

リセットスイッチの場所は、本章 1. 2 各部の名称⑥参照

④約5秒経過後ディップスイッチ (SW2) を右記の設定にする。



⑤リセットスイッチを押す。



⑥操作パネルの「電源」「通報中」「異常」「監視」のランプが全て点滅します。

この状態で設定データは消去されて初期状態になり、データ設定が可能となります。

5. 設定データ詳細

(1) モード1

(a) 電話回線のダイヤル種別

カ	イ	セ	ン	=													
---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

↑
ダイヤル種別

- ・ダイヤル種別 1 : 10PPS 2 : 20PPS 3 : PB

(注) 回線のダイヤル種別が設定したダイヤル種別と異なる場合は、通報できませんのでご注意ください。

(b) 端末番号

タ	ン	マ	ツ	N	O	.	=										
---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

↑
端末番号

- ・端末番号 00000~99999

(注) P-3000モード時は00000~09999のみ有効となる。10000以上が設定されている場合にP-3000モードの通信を行うと、「0000」が端末番号として出力される。
P-2000モード(4桁対応)時は、00000~07999のみ有効となる。

(c) 通報方式

ク	"	ル	ー	フ	°	=											
---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

↑
通報方式

- ・通報方式 1 : 通報切替無し、個別通報 4 : 通報切替有り、個別通報
- 2 : 通報切替無し、グループOR通報 5 : 通報切替有り、グループOR通報
- 3 : 通報切替無し、グループAND通報 6 : 通報切替有り、グループAND通報

(d) 通報先T01電話番号

T	0	1	=															...	
---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	--

↑
電話番号

- ・電話番号 0-9又はポーズ(「-」)を入力します。入力桁は1~32桁(スクロールして表示)ポーズの入力は「復旧キー」を押す。

注) T01のみ初期値として「0000000000」が入っています。よって、T01の設定を行うときは必ず「消去」キーを押してから行うようにして下さい。

(e) 通報先T01の通報相手

T	0	1	ノ	ア	イ	テ	=									
---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

↑
通報相手

- ・通報相手 1 : P-2000モード、ENQ無し 2 : P-2000モード、ENQ有り
- 4 : P-3000モード 7 : 電話機
- 8 : P-6000モード

(注) (d) (e) の通報先設定をT01からT24まで行います。

(2) モード2

(a) 定時通報

テ	イ	シ	"	=	S			:				H	:		
---	---	---	---	---	---	--	--	---	--	--	--	---	---	--	--

↑
定時通報センサ番号

↑
定時通報時間

↑
通報モード

- ・定時通報センサ番号 (初期値=00)
 - 00 : 定時通報を行わない
 - 01~15 : 定時通報を行うセンサ番号
- ・定時通報時間 (初期値=001) 001~300 : 定時通報の繰り返し時間を設定 (H)
- ・通報モード (初期値=0)
 - 0 : 監視中のみ定時通報を行う
 - 1 : 常時定時通報を行う

(注1) この項目で設定されたセンサ番号は無視され、指定された通報先になります。

(b) 監視/解除 (初期値=00)

リ	モ	コ	ン	=	S										
---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

↑
監視/解除センサ番号

- ・監視/解除センサ番号 00 : 監視/解除通報を行わない
- 01~15 : 監視/解除通報を行うセンサ番号

(注1) 設定されたセンサ番号は、モード3で設定されたセンサ条件を無視します。また、この項目で設定されたセンサ番号のグループ番号は無視され、指定された通報先になります。

(注2) センサ確認等でこの情報を送信する場合の監視/解除は以下ようになります。

- 1 : 監視 0 : 解除

(c) バッテリギブアップ通報 (初期値=00)

B	G	=	S												
---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

↑
バッテリーギブアップセンサ番号

- ・バッテリーギブアップセンサ番号 00 : バッテリギブアップ通報を行わない
- 01~15 : バッテリギブアップを行うセンサ番号

(注1) 設定されたセンサ番号は、モード3で設定されたセンサ条件の中でセンサ種別、通報条件、入力感動時間、起動条件を無視します。また、この項目で設定されたセンサ番号のグループ番号は無視され、指定された通報先になります。

(d) リモコンボックス断線 (初期値=00)



リモコンボックス断線センサ番号

- ・リモコンボックス断線センサ番号 00：リモコンボックス断線通報を行わない
01～15：リモコンボックス断線を行うセンサ番号

(注1) 設定されたセンサ番号は、モード3で設定されたセンサ条件の中でセンサ種別、通報条件、入力感動時間、起動条件を無視します。また、この項目で設定されたセンサ番号のグループ番号は無視され、指定された通報先になります。

(注2) センサ確認等でこの情報を送信する場合の情報は以下のようになります。

1：リモコンボックス断線有り 0：リモコンボックス断線無し

(e) 自動応答

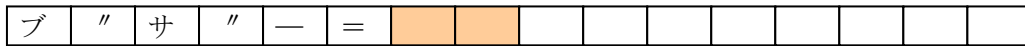


自動応答設定 着信回数 応答メッセージ 暗証番号

- ・自動応答設定 (初期値 = 0)
 - 0：自動応答せず
 - 1：監視中のみ簡易遠隔制御 (電話機)
 - 2：常時簡易遠隔制御 (電話機)
 - 3：常時P-3000モードによる応答
 - 4：常時P-6000モードによる応答
 - 5：監視中のみP-3000モードによる応答
 - 6：監視中のみP-6000モードによる応答

- ・着信回数 (初期値=01) 01～24 (回)
- ・応答メッセージ (初期値=0) 0：応答メッセージ無し 1：応答メッセージ有り
- ・暗証番号 (4桁) (初期値=0000) 0000～9999

(f) ブザー鳴音時間 (初期値=00)

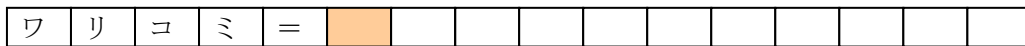


ブザー鳴音時間

- ・ブザー鳴音時間 (初期値=00) 00：鳴音せず
- および外部接点出力時間 01～60：鳴音時間 (秒)
- 99：連続音

(注1) ブザー鳴音はモード3 の“ブザー鳴音”で設定されたセンサのみ対象となります。

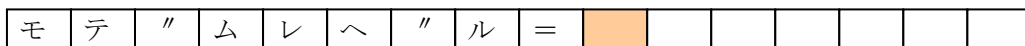
(g) 割り込み機能



割り込み機能

- ・割り込み機能 (初期値=0) 0：割り込み機能無し 1：割り込み機能有り

(h) モデムレベル設定 (初期値=1)



モデム出力レベル

- ・モデム出力レベル 0 : -10dBm 1 : -12dBm 2 : -14dBm

(i) 定時通報開始時間設定 (初期値=00)

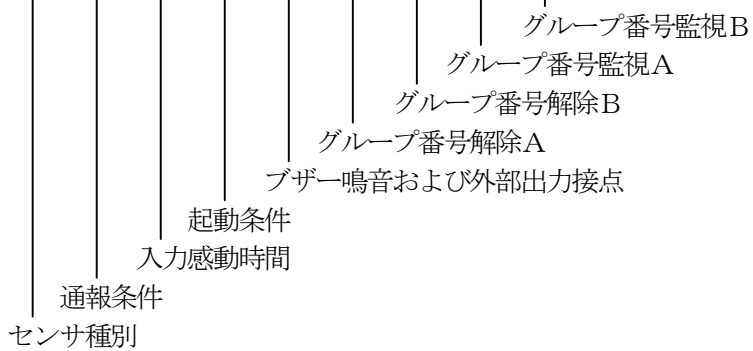
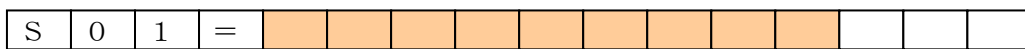


↑
定時通報開始時間

- ・定時通報開始時間 00~48 (H)
- (注)「通常」に設定した時間からこの項目で設定した時間経過後に定時通報のカウンタを開始します。

(3) モード3

(a) センサ条件



- ・センサ種別 (初期値=0) 0 : メーク接点 1 : ブレーク接点
- ・通報条件 (初期値=0) 0 : 常時発報 1 : 監視中のみ発報
- ・入力感動時間 (初期値=0) 0 : 0.5秒 1 : 5秒 2 : 10秒
- ・起動条件 (初期値=0) 0 : 立ち上がり起動 1 : 両起動
- ・ブザー鳴音および外部出力接点 (初期値=0)
 - 0 : ブザー鳴音および外部出力接点動作無し
 - 1 : ブザー鳴音および外部出力接点動作有り
- ・グループ番号解除A/B グループ番号監視A/B (全て初期値=1)
 - 1 : 1グループ 2 : 2グループ 3 : 3グループ 4 : 4グループ

グループは監視/解除の切替 (モード1の通報方式) が設定された時 監視/解除の通報先グループを設定する。切替無しの設定では “グループ番号解除A および B” が有効となる。監視/解除の切替およびグループ番号解除A/B、グループ番号監視A/Bの設定による動作は以下のようになります。

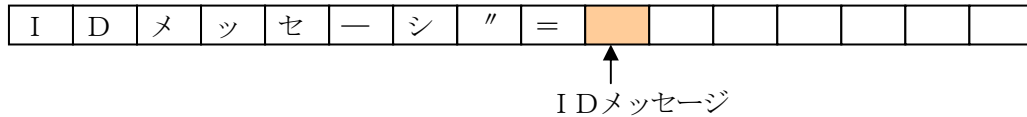
(例)

切替 なし/あり	グループ番号 解除A	グループ番号 解除B	グループ番号 監視A	グループ番号 監視B	動作
なし	1	1	2	2	1グループのみ通報
あり	1	1	2	2	解除時：1グループ 通報 監視時：2グループ 通報
なし	1	2	3	4	1、2グループ 通報
あり	1	2	3	4	解除時：1、2グループ 通報 監視時：3、4グループ 通報

- (注1) 上記「S01」はセンサ番号01を表しており、「S01」～「S24」まで同様です。
- (注2) 次センサの選択はモード1、モード2と同様に「進みキー」で行います。
- (注3) 個別通報の場合、グループ番号は無視されます。
- (注4) グループを1つだけ設定する時は同一のグループ番号をAおよびBに設定する。
- (注5) ブザー鳴音有りを設定した場合の鳴音時間はモード2“ブザー鳴音時間”にて設定した時間となります。

(4) モード4

(a) IDメッセージの録音/再生



- ・IDメッセージ (初期値=0) 0 : 録音無し 1 : 録音有り

《録音方法》

- ① 「IDメッセージ=0」(初期値は0)が表示されている状態で実行キーを押します。
- ② 「IDメッセージ=0」の“0”が点滅表示となる。電話機から「1」をダイヤルして、再度「実行キー」を押す。
- ③ 「*****」が表示され、録音が始まります。(1秒毎に「*」が消えます。)
- ④ 5秒後に「IDメッセージ=1」を表示して終了します。

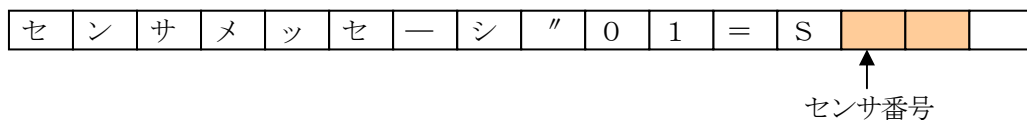
《再生方法》

- ① 「IDメッセージ=1」が表示されている状態でチェックスイッチを押します。
- ② 電話機から再生します。

《消去方法》

- ① 「IDメッセージ=1」が表示されている状態で「消去キー」を押す、または「0」をダイヤルして「実行キー」を押す。
- ② 「IDメッセージ=0」を表示する。

(b) センサメッセージの録音/再生



- ・センサ番号 00 : 録音無し 01～24 : センサ番号

《録音方法》

- ① 「センサメッセージ01=S00」～「センサメッセージ24=S00」の内録音を行いたいセンサメッセージ番号を選択する。
- ② 「センサメッセージxx=S00」が表示されている状態で実行キーを押します。
- ③ 「センサメッセージxx=S00」“00”が点滅表示となる。電話機から設定したいセンサ番号(△△)を入力し、再度「実行キー」を押す。
- ④ 「*****」が表示され、録音が始まります。(1秒毎に「*」が消えます。)
- ⑤ 5秒後に「センサメッセージxx=S△△」を表示して終了します。

《再生方法》

- ① 「センサメッセージxx=S△△」が表示されている状態でチェックスイッチを押します。
- ② 電話機から再生します。

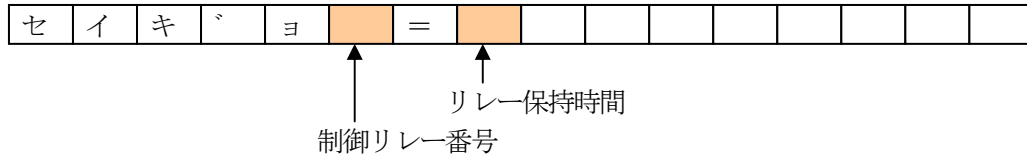
《消去方法》

- ① 「センサメッセージxx=S△△」が表示されている状態で「消去キー」を押す、または「00」をダイヤルして「実行キー」を押す。
- ② 「センサメッセージxx=S00」を表示する。

(注1) 「センサメッセージ02=S△△」～「センサメッセージ24=S△△」までは同様に設定する。
 (注2) 同一のセンサメッセージ番号をセンサメッセージ01～24までに割り当てることはできません

(5) モード5

(a) 制御出力リレーのON保持時間



- ・制御リレー番号 1～8
- ・リレー保持時間 (初期値=0) 0 : 保持する 1 : 1秒 2 : 2秒 3 : 5秒 4 : 10秒

6. 動作試験と調整

6. 1 警報・監視 (センサ) 入力信号確認の方法

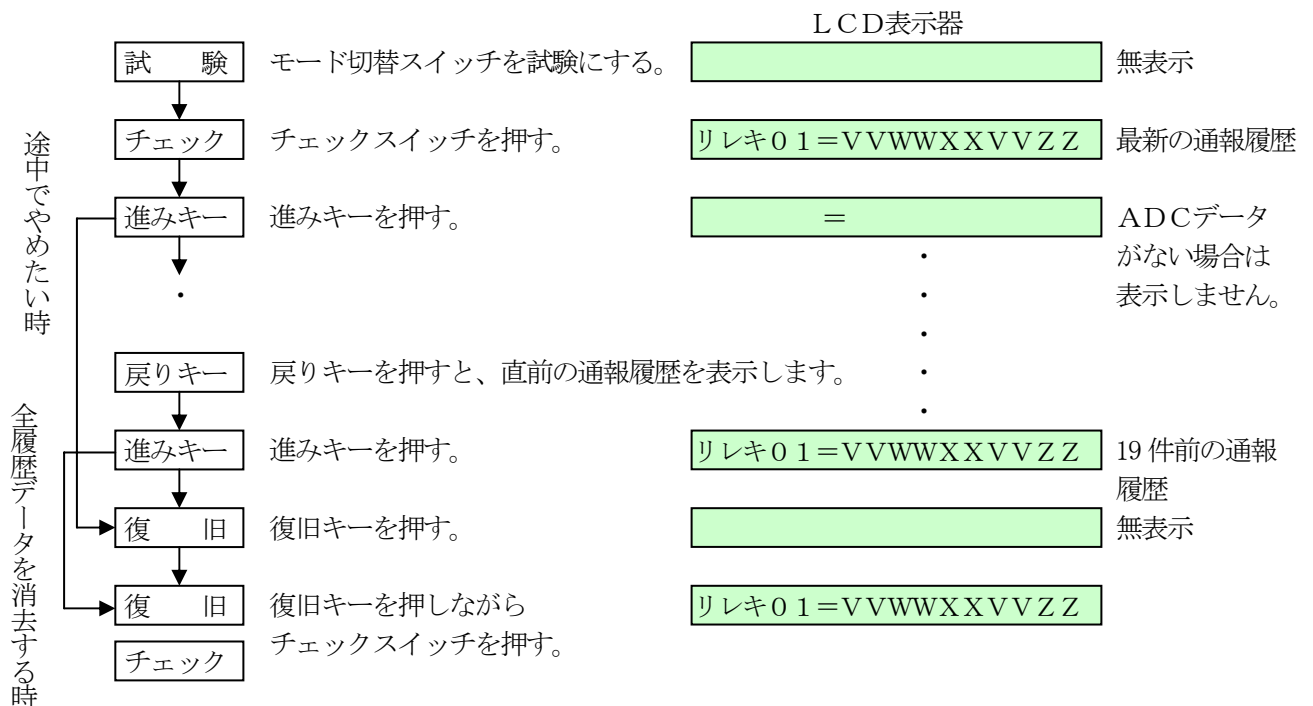
- (1) 電話回線を外します。(モジュラコネクタのLINE側)
- (2) モード切替スイッチを「通常」にします。
- (3) センサ等を動作させます。
- (4) チェックスイッチを押すと、動作しているセンサ番号がLCDに表示されます。 但し、チェックスイッチを押した時、すでにセンサの動作が回復していればOKと表示されます。

6. 2 通報試験

通報試験を行う場合は、予め通報先に知らせてから実施してください。

- (1) モード切替スイッチを「通常」にします。
- (2) センサを動作させます。
- (3) 通報動作を行います。

6. 3 通報履歴の読み方



通報履歴表示内容

(1) 表示データは履歴番号を含め全て16進法で表示されます。 下表に16進数と10進数と2進数で表した例を示します。

16進数	10進数	2進数	16進数	10進数	2進数
0	0	0000 0000	10	16	0001 0000
1	1	0000 0001	11	17	0001 0001
2	2	0000 0010	12	18	0001 0010
3	3	0000 0011	13	19	0001 0011
4	4	0000 0100	14	20	0001 0100
5	5	0000 0101	15	21	0001 0101
6	6	0000 0110	16	22	0001 0110
7	7	0000 0111	17	23	0001 0111
8	8	0000 1000	18	24	0001 1000
9	9	0000 1001	19	25	0001 1001
A	10	0000 1010	1A	26	0001 1010
B	11	0000 1011	1B	27	0001 1011
C	12	0000 1100	1C	28	0001 1100
D	13	0000 1101	1D	29	0001 1101
E	14	0000 1110	1E	30	0001 1110
F	15	0000 1111	1F	31	0001 1111

例1. 16進数の14を10進数にすると20になります。 (14) H=1×16+4=20と計算されます。

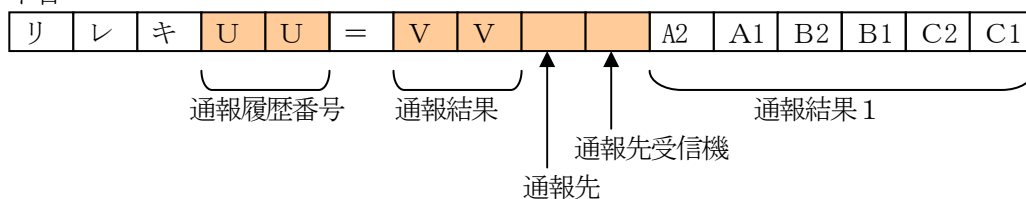
例2. 16進数の7Dを2進数にすると 0111 1101 となります。

(2) 通報履歴は最新の20件分を表示できます

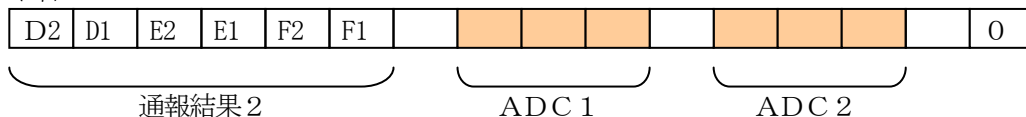
6. 4 履歴詳細

通報履歴は1ワード又は2ワード構成です。 “リレキ”表示があるワードは1ワード目です。

1ワード目



2ワード目



・ 通報履歴番号 通報の履歴を表示する。

00 : 履歴無し

01 : 最新の通報履歴



20 : 20件前の通報履歴

・ 通報結果 通報の内容を表示する。

00 : 正常終了

- 01 : 自己切断 (途中放棄)
復旧スイッチにより装置側で途中放棄した場合
- 02 : 相手先中断
通信途中で極性反転を検出した場合
相手先電話機において音声通話開始後の相手先切断は正常終了と見なします。
- 03 : 相手不応答
通信相手の通信検出ができないとき
 - 1) 電話機においてT1タイムアウト (ダイヤル発呼後の極性反転未検出)
 - 2) P-2000モード T1タイムアウト (ダイヤル発呼後の極性反転未検出)
 - 3) P-2000モード (ENQ有り) T1タイムアウト (ENQ未検出)
 - 4) P-3000モード T8タイムアウト
 - 5) P-6000モード T1タイムアウト
 - 6) 発呼時においてループ閉結後のループ検出ができないとき
- 10 : P-3000モード T2タイムアウト 受信待ちタイムアウト
- 11 : P-3000モード CAK3受信エラー
センサ情報送信手順においてCAK3が3回受信できなかった。
- 12 : P-3000モード T7タイムアウト 通信タイムアウト
- 15 : P-3000モード 受信コマンドエラー (3回)
認識不可コマンドを3回受信したとき
- 16 : P-3000モード ENQ3エラー
ENQ3待ちで他のデータ又はコマンド受信を3回行った事によるエラー
- 17 : P-3000モード データエラー (センサ情報送信)
装置より送信したデータとセンサ装置より送られてくるデータが3回一致しないとき
- 18 : P-3000モード CAK3エラー
CAK3を3回送信してもセンサ状態確認を受け取ることができなかったとき
- 20 : P-6000モード NS0によるエラー
- 21 : P-6000モード NS1によるエラー
- 22 : P-6000モード NS2によるエラー
- 23 : P-6000モード NS3によるエラー
- 24 : P-6000モード NS4によるエラー
- 29 : P-6000モード NS9によるエラー
- 31 : P-6000モード NR1によるエラー
- 32 : P-6000モード NR2によるエラー
- 39 : P-6000モード NR9によるエラー
- 40 : P-6000モード T2タイムアウトエラー
- 50 : P-6000モード 再送ENQ受信エラー
再送ENQを3回受信したことによるエラー
- 60 : ADCタイムアウトエラー

・通報先

A : 通報先T01 B : 通報先T02 C : 通報先T03 D : 通報先T04 E : 通報先T05
 F : 通報先T06 G : 通報先T07 H : 通報先T08 I : 通報先T09 J : 通報先T10
 K : 通報先T11 L : 通報先T12 M : 通報先T13 N : 通報先T14 O : 通報先T15
 P : 通報先T16 Q : 通報先T17 R : 通報先T18 S : 通報先T19 T : 通報先T20
 U : 通報先T21 V : 通報先T22 W : 通報先T23 X : 通報先T24 Z : 自動応答

・通報先受信機

1 : P-2000ENQ無し 2 : P-2000ENQ有り 4 : P-3000モード
 7 : 電話機 8 : P-6000モード

・通報結果1／通報結果2

A2、A1、B2、B1、C2、C1、D2、D1、E2、E1、F2、F1、:センサ番号 (S1～S24)

A2				A1			
D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
S08	S07	S06	S05	S04	S03	S02	S01

B2				B1			
D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
S16	S15	S14	S13	S12	S11	S10	S09

C2				C1			
D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
S24	S23	S22	S21	S20	S19	S18	S17

・ADC2／ADC1

ADC1 : 1CHの計数データ (000～999)

ADC2 : 2CHの計数データ (000～999)

(注) 音声通報、P-2000モードは1ワードです。 P-3000は計数1チャンネルのみ有効です。

7. 施工完了後の確認・点検

7.1 接続線の固定 (整理)

本章 1.4 工事用工具と用品 で準備した束線バンドで、接続し終わったセンサの信号線、リモコンボックス線、電話回線接続線を締め付け、束線バンド止め穴に固定します。

7.2 試験が終わった後の点検

- (1) モード切替スイッチを「通常」にします。
- (2) 電源ランプが点灯し、通報中ランプが消灯していることを確認します。
- (3) LCD表示器には何も表示されていないことを確認します。
また、チェックスイッチを押すとセンサOKと表示することを確認します。
- (4) 異常ランプが点灯していれば、復旧スイッチで消灯することを確認します。
- (5) 鍵を閉めます。

第5章 保守管理

1. 電池

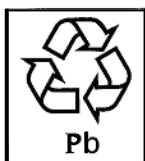
1. 1 予備電池の交換

予備電池として使用している電池は、小型シール鉛蓄電池PWL 1 2 V 1. 2（相当品）です。電池の寿命は、環境条件によって大きく左右されますが、約3年程度で交換してください。交換手順は以下の通りです。

- (1) 予備電池のコネクタ（CN 1 2）を外します。
- (2) 電池取り付けネジをゆるめてはずすと電池おさえ板がはずせます。
- (3) 古い電池を取り外します。
- (4) 古い電池のファストン端子部分からバッテリーケーブルを外してください。この際、ケーブルを引っ張らずに必ずファストン端子部分を持ってはずしてください。
- (5) 新しい電池の「+」（赤色ファストン端子）とケーブルの+（赤線）のファストン端子を接続して下さい。
同様に新しい電池の「-」（黒ファストン端子）とケーブルの-（黒線と黄色線）のファストン端子を接続して下さい。
- (6) 新しい電池を所定の位置に入れて、電池おさえ板と電池おさえ板取付用ネジで固定し、コネクタを接続します。

【ご注意】

- ①電池を交換する場合は、極性表示に注意し表示どおりに接続してください。間違えますと電池の破裂、液漏れにより火災、けがや周囲を汚染する原因となることがあります。また、古くなって交換した電池は火中に投げないでください。



電池パック回収のお願い

電池パックはリサイクル可能な電池です。

不要になった電池パックは、お買い求めになった販売店にお渡しください。リサイクルの推進にご協力をお願いします。



警告

電池パックの取り扱いについて

- ・必ず専用の電池をお使いください。
- ・火の中に投入したり、分解・加熱したりしないでください。
- ・端子を短絡（ショート）させないでください。

1. 2 ヒューズの交換方法

ヒューズは指定したヒューズをお使いください。

	用 途	規 格	形 状
ヒューズF 1, F 2	AC電源用	スローブロー125V2A	ガラス管φ5.20×20

ヒューズを交換するときは電源を「OFF」にして行ってください。

ヒューズホルダの上部を左へ回転するとはずれません。

ヒューズ交換後押ししながら右に回転すると取り付けられます。

1. 3 保守点検チェックリスト

チェック項目		清掃	点検	調整	所見	
使用環境	周囲	①周囲に、粉塵はありませんか？				
		②温度、湿度は許容範囲ですか？				
		③振動や衝撃の影響はありませんか？				
		④煙、油煙、湯気などの影響は受けていませんか？				
		⑤昆虫（害虫）などが徘徊していませんか？				
使用環境	外観	①取付は固定されていますか？				
		②外観に変形や損傷はありませんか？				
		③汚れや粉塵がひどくありませんか？				
配線	電話	①電話回線は乱れたり、断線していませんか？				
		②電話機は正常に使用できますか？				
		③電話回線に付属の電話機などの接続は、合計で2台以下ですか？				
		④電話はダイヤルからプッシュホン式に変更になっていませんか？				
	配線	電源	①電源はタコ足配線されていませんか？			
			②使用電源はAC100V±10Vの範囲ですか？			
			③停電時に電池で作動しますか？			
			④停電を復旧（復電）させたときに、正しい動作をしますか？			
			⑤接地線は断線していませんか？			
	配線	警報・センサ	①入力線は乱れたり、断線していませんか？			
②入力線に電圧はかかっていますか？						
③入力条件がメーカーの場合 (1) 警報が発生していないときに、抵抗値は∞ですか？ (2) 警報を擬似的に発生させたとき、入力はループですか？						
④入力条件が、ブレークの場合 (1) 警報が発生していないときに、抵抗値はループですか？ (2) 警報を擬似的に発生させたとき、入力は∞ですか？						
⑤警報入力の動作時間は0.5秒以上ありますか？						
機能	装置	①スイッチや端子は破損していませんか？				
		②各表示ランプは、切れていませんか？				
		③LCD表示は正しく表示しますか？				
		④設定してある内容は、電話機で音声確認できますか？				
	機能	条件設定	①警報・センサ入力条件は設定の通りですか？			
			②警報音の鳴音条件は設定の通りですか？			
			③通報メッセージの再生音は設定の通りですか？			
			④通報条件は、設定通りに相手が受信できますか？			
	機能	付属品	①取扱説明書はありますか？			
			②鍵はありますか？			
③ヒューズはありますか？						

1. 4 ランプ表示

表1. 4 PT-5500ランプ表示詳細仕様一覧

注) 空欄はランプ操作対象外

発生状態		ランプ	電源	通報中	異常	監視	制御「#」
1	電源ON (AC給電) (注1)		点灯	消灯	消灯	前の状態保持	消灯
	停電後の復電		点灯				
2	停電発生 (AC断)		点滅				
3	バッテリー未接続時		早い点滅				
4	設定データ記憶エラー発生		早い点滅	早い点滅	早い点滅	早い点滅	
5	フラッシュ書き込みタイムアウトエラー		早い点滅	早い点滅	早い点滅	早い点滅	
6	設定/試験モード移行		早い点滅	早い点滅	早い点滅	早い点滅	
7	通常モードへ復旧						
8	センサ起動 (立ち上がり)				点滅		
9	センサ起動 (立ち下がり)				点滅		
10	ギブアップ通報起動発生				点滅		
11	リモコン断線通報起動発生				点滅		
12	監視スイッチ (立ち下がり)					点灯	
13	解除スイッチ (立ち下がり)					消灯	
14	監視通報起動発生						
15	解除通報起動発生						
16	定時通報起動発生						
17	回線閉結			点灯			
18	回線開放			消灯			
19	全ての通報終了				点灯		
20	規定回数通報NG時			早い点滅	早い点滅		
21	制御リレー「#」遠隔制御ON						点灯
22	制御リレー「#」遠隔制御OFF						消灯
23	復旧スイッチON			消灯 (20の時)	消灯 (4, 5除く)		

(注1) データ未設定の場合は4項と同じ表示となります。

第6章 保証書

1. 保証書

IWATSU 保証書			
製品名	パトホン PT-5500		
お買い求めの日	年 月 日	保証期間	お買い求めの日より 1年間
(1) お客様	ご住所	〒 TEL	
	ご氏名	様	
(2) 販売店印			

この製品をご使用中、正常な使用状態で自然故障した場合は、本保証書記載内容により1年間無料修理いたします。

- 修理はお買い求めの販売店に本保証書を提示の上ご依頼ください。
- お買い求めの日、販売店印などの記入漏れがあると無効となります。必ずご確認ください、記入のない場合はお買い求めの販売店にお申し出ください。
- ご転居・ご贈答品などでお買い求めの販売店に修理を依頼することができない場合は、下記電話番号にご相談下さい。
- 本書は再発行いたしません。たいせつに保管してください。

※ご記入いただいた内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただきます場合がございますので、ご了承ください。

岩崎通信機株式会社
〒168-8501 東京都杉並区久我山1-7-41
03-5370-5700

保証規定

- 取扱説明書、本体注意ラベルなどの注意書にしたがった正常な使用状態で、保証期間内に故障した場合にはお買い求めの販売店が無料修理いたします。ただし、離島およびこれに準ずる遠隔地への出張修理は、出張に要する実費をいただきます。
- 保証期間内でも、次の場合には有料修理となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - お買い求めの日・お客様名・販売店印記入がない場合、または字句を書き換えられた場合。
 - 使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障・損傷。
 - お引渡し後の移動、落下などによる故障・損傷。
 - 火災・公害・異常電圧および地震・雷・風水害その他天災地変など。外部に原因がある故障・損傷。
 - 消耗部品が損耗し取り換えを要する場合。
 - 電池の液もれによる故障・損傷。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

★この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。また、保証期間経過後の修理などにつきまして、おわかりにならない場合はお買い上げの販売店または弊社営業拠点にお問い合わせください。

年月日	修理者	ご確認	修理メモ

ご注意

- 保証書はお買い上げ販売店の記入がないと無効です。
- 保証書の再発行は致しませんので大切に保管願います。

免責事項

- 火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意又は過失、誤使用、異常な条件下での使用により生じた損害に対して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品の使用又は使用不能から生じる付加的な損害（事業利益の遺失、事業の中断、記憶内容の変化、消失など）に関して、当社は一切責任を負いません。
- 保守部品の保有期間について、納入後7年とします。

ご不明の点がございましたら、下記電話番号へお気軽にご相談下さい。

創造と豊かな対話のために

IWATSU 岩崎通信機株式会社
通信営業本部 〒168-8501 東京都杉並区久我山1-7-41
03-5370-5700

YML001185 (5版)
平成21年05月発行